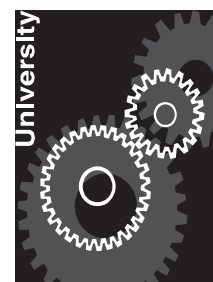
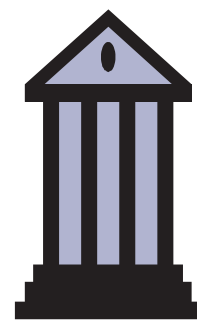
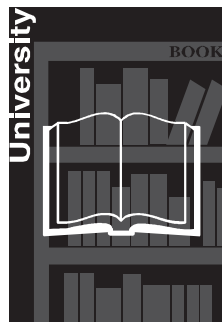
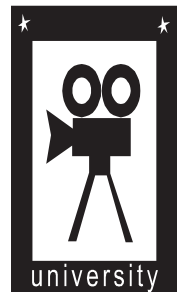


総合人間学部

履修総合人間学部 2017

履修モデル 2017



目 次

1 人間科学系

人間形成論関係	1
社会行動論関係	2
文化社会論関係	3
人間存在論関係	4
創造行為論関係	5
文芸表象論関係	6

2 認知情報学系

認知・行動科学関係	7
数理情報論関係	10
言語科学関係	12
外国語教育論関係	15

3 国際文明学系

社会相関論関係	多文化社会論	18
	国際関係論	20
	国家・社会法システム論	22
	社会経済システム論	25
	公共政策論	27
歴史文化社会論関係	歴史社会論	29
	東アジア文化論	30
	西欧文化論	32

4 文化環境学系

比較文明論関係	多文化複合論	35
	地域文明論	36
	文明交流論	36
文化・地域環境論関係	環境構成論	37
	文化人類学分野	39
	地域空間論分野	41

5 自然科学系

物理学	43
化学・物質科学	44
生物科学	45
地球科学	47

6 卒業生からの履修アドバイス

49

7 あとがき

人間形成論関係 履修モデル

	教育社会学・教育史	発達心理学	精神病理学・精神分析学
4 回生 (卒論)	人間形成論演習 A・B (重複履修可) 人間形成史論演習 A・B (重複履修可)	関係発達論演習 A・B (重複履修可)	精神病理学・精神分析学演習 A・B (重複履修可)
3 回生 (卒論に備えて)	人間形成論演習 A・B (重複履修可) 人間形成史論演習 A・B (重複履修可) 人間形成論*1 人間形成史論	関係発達論演習 A・B (重複履修可) 関係発達論の応用*1 心理学実験*1 心理学研究法入門*2 心理学研究法演習*2	精神病理学・精神分析学演習 A・B (重複履修可) 精神病理学・精神分析学 精神分析 I・II*2
1 - 2 回生 (全学共通科目)	教育学 I・II 基礎演習：教育・社会・国家 基礎演習：ジェンダー論 教育学基礎ゼミナール ジェンダー論基礎ゼミナール	心理学 I・II 関係発達論 I・II 発達心理学基礎ゼミナール 基礎演習：発達心理学	精神病理学 I・II 精神分析学 行動病理学 I・II 精神病理学・精神分析学講読演習*3

*1 この科目は 2 回生から履修できます。

*2 この科目は 1 回生から履修できます。

*3 この科目は他の精神病理学・精神分析学関連の科目の既履修または並行履修が条件となります。

他学部科目に関しては 16 単位まで主専攻科目として認定されますので、教育学部や文学部の便覧を閲覧の上、履修してください。
卒論のテーマや読むべき文献、研究方法などに関して、教育社会学……倉石一郎、教育史……小山静子、発達心理学……大倉得史、精神病理学・精神分析学……松本卓也が、それぞれ個別に相談に応じます。

社会行動論関係 履修モデル (平成29年度)

	社会学	社会心理学 グループ・ダイナミクス	
4回生 (卒論)	人間行動論演習A・B* 社会情報論演習A・B*	卒論・大学院ゼミ (社会心理学演習A・B)	人文科学研究方法論演習A・B***
3回生 (卒論に備えて)	人間行動論演習A・B* 社会情報論演習A・B* 人間行動論 社会情報論 社会調査のための統計学	社会心理学演習A・B 心理学実験	人文科学研究方法論演習A・B*** 生命倫理学
1-2回生 (全学共通科目／ 基礎演習)	社会学Ⅰ・Ⅱ 社会学各論Ⅰ・Ⅱ 社会学基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ** 基礎演習：社会学Ⅰ・Ⅱ** 社会調査のための統計学 (学部科目・2回生以上)	社会心理学 社会心理学基礎ゼミナール 基礎演習：社会心理学 心理学Ⅰ・Ⅱ グループ・ダイナミクス 心理学研究入門(学部科目) 心理学研究法演習(学部科目) 心理学実験(学部科目・2回生以上)	生命倫理学(学部科目・2回生以上) 神話論Ⅰ・Ⅱ
他学部科目† *16単位まで専 攻単位として認定	系共通科目(社会学)(文) 社会学・特殊講義(文) 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ(教) 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ(教) 現代教育社会学(教) メディア文化論(教)	系共通科目(心理学)(文) 心理学・特殊講義(文) 認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ(教) 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ(教) 心理学統計実習A・B(教)	

† 他学部科目について：ここに挙げられている科目は、16単位まで、主専攻単位として認定される。履修にあたっては、指導教員などの教員の印が必要。
各科目の履修可能回生や授業内容は、各学部のシラバスを閲覧すること(KULASISで閲覧可能)。

* 3回生時に「社会情報論演習A・B」を履修した学生は、4回生では「人間行動論演習A・B」を履修すること(またはその逆)。

なお、平成29年度は「人間行動論演習A・B」は不開講となるが、平成29年度4回生は「社会情報論演習A・B」の重複履修を可とする。

** 平成29年度は「社会学基礎ゼミナールⅠ」「基礎演習：社会学Ⅰ」は不開講となる。

*** 「人文科学研究方法論演習A・B」では、卒業論文指導は行わない。

平成29年度 文化社会論関係 履修モデル

2017年4月

4回生 (卒論)	ヒストリー・オブ・アイディアズ	動態映画文化論	制度・生活文化史	メディア・スタディーズ
	ヒストリー・オブ・アイディアズ ヒストリー・オブ・アイディアズ演習	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ 動態映画文化論演習Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史 制度・生活文化史演習	メディア・スタディーズ メディア・スタディーズ演習
	卒論のテーマ、読むべき文献、調査・研究方法などに関しては、ヒストリー・オブ・アイディアズは多賀 茂、動態映画文化論は木下千花、松田英男、制度・生活文化史は田邊玲子、それぞれ個別に相談に応じます。			



3回生 (卒論に備えて)	ヒストリー・オブ・アイディアズ	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史	メディア・スタディーズ
	ヒストリー・オブ・アイディアズ ヒストリー・オブ・アイディアズ演習	動態映画文化論演習Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史 制度・生活文化史演習	メディア・スタディーズ メディア・スタディーズ演習
	3回生では、自らの関心対象、テーマに焦点を絞って学部科目を履修することを勧めます。卒論のテーマを複数挙げ、どれがよいかしっかり考えること。各教員が個別に相談に応じます。			



2回生 1-2回生 (全学共通科目)	ヒストリー・オブ・アイディアズ	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史	メディア・スタディーズ
	1-2回生では、全学共通科目から、現代の社会や文化、さらには哲学・芸術・文学・思想・歴史・国際関係に関する授業を幅広く履修し、知識の地平を拡げておくことが望ましい。そのなかで思考の訓練を積み、自分の興味や問題意識がどこにあるかを探り、自らの視点を養ってほしい。語学力も磨いておくこと。			

* 専門科目はすべて重複履修可能です。ただし、それは必ず複数回履修しなければならないという意味ではありません。専門科目は3回生から始めてもいいのです。

人間存在論関係履修モデル

分野教員：佐藤義之、安部浩、戸田剛文、青山拓央

学年ごとの履修モデルを下に例示しましたが、これはあくまで近代以降の西洋哲学思想を学ぶ一般的なケースであり、各人それぞれ興味関心も違うので、誰でも下の通りにすればよいとは限りません。積極的に教員に相談を持ちかけることを勧めます。また、卒業に必要な単位数は、『総合人間学部便覧』で確認してください。

1 回生：

- 「人間存在論関係」の1回生担当の講義科目（※）をひろくとること。
- 「人間存在論関係」の1回生担当の演習・セミナー科目（※）もいくつかとること。
- 語学については、英語のほかに第二外国語として独語、仏語のいずれかをとおくこと。

2 回生：

- 「人間存在論関係」の2回生以上担当の講義科目（※）をひろくとること。
※ただし、「認識人間学」は1回生からとれます
- 上記第二外国語については引き続き中級をとり、さらに修得すること。とりわけ、卒論で扱いたい哲学者の使用する言語は熱心に学習すること。

3 回生：

- 3回生後期から卒論指導教員を決め、そのもとで卒論のための研究を始めることになります。そのためにはまず、卒論で扱いたい哲学者を決め、その研究に一番適切な教員を指導教員として選ぶべきでしょう。講義、演習を手がかりとしながら、主体的な学習のなかで、自らの関心をひく哲学者を卒論の研究対象として選んで下さい。
- 「人間存在論関係」の2、3回生以上担当の講義科目（※）をひろくとること。
- 「人間存在論関係」の3回生以上担当の演習科目（※）をとること（上記第二外国語に関する演習も）。

4 回生：

- 4回生担当「人間存在論特別演習」をとり、この授業で「人間存在論関係」教員全員による卒論指導を受けること。
- 「人間存在論関係」の3回生以上担当の演習科目（※）をとること。

各学年に共通：

- 「人間存在論関係」の科目だけに限定しようとせず、興味のひかれる科目には積極的に出て下さい（特に低学年では）。
- 上でも述べた通り、語学習得は非常に重要です。
- ギリシャ語、ラテン語も余裕があればどちらか履修しておくのが望ましい。
- 「自由科目」として文学部等他学部の科目を受講することも出来るので、興味のあるひとは積極的に利用することを勧めます。
- 副専攻については特に指示することはありません。自分の関心に応じて選んで下さい。

注：※印をつけた科目の個別の科目名は『総合人間学部便覧』の「人間存在論関係」の科目一覧表参照。

創造行為論関係履修モデル

(分野教員：岡田温司、栗山智成、武田宙也)

創造行為論分野では、美や芸術の思想、理論、歴史を学びます。といっても、ジャンルや時代、地域が非常に多岐にわたります。たとえば、ジャンルとしては、哲学的な美学、美術史、演劇、音楽、建築、デザインやファッションなどがあります。皆さんのそれぞれの関心や興味に応じて、出来るだけひろく選択してください。また、基礎ゼミナールなどを通じて、教員に積極的にアプローチすることを勧めます。

1回生

- ◇ 「創造行為論関係」の基礎科目をひろくとること。
- ◇ 「創造行為論関係」の基礎ゼミナール、「基礎演習：西洋美術の歴史」をとること。
- ◇ 語学については、英語のほかに少なくとももうひとつの外国語を履修すること。

2回生

- ◇ 「創造行為論関係」の2回生以上配当の授業科目をとること。
- ◇ 「創造行為論購読演習」を履修すること。
- ◇ 読解力のつく語学の授業を履修する。
- ◇ 1回生で未履修の場合は、基礎ゼミナールをとること。

3回生

- ◇ 「創造行為論関係」の3回生以上配当の演習科目をとり、卒論に向けて徐々に準備を始める。

4回生

- ◇ 引き続き、演習科目をとって、卒論の指導を受ける（なお、演習科目は重複可なので、単位はカウントされる。）

各学年に共通

- ◇ 第二外国語として、できれば2ヶ国語（ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語などから）を履修することが望ましい。
- ◇ 「創造行為論関係」の科目に限らず、各人の関心に応じてひろく履修する。
- ◇ 「自由科目」として文学部等の科目を履修することも可能。
- ◇ 副専攻については、各人の興味に応じて選択すること。

英米文芸表象論

ドイツ文芸表象論

カッコ内は他の「関係」科目であくまで一例です

4年生 (卒論)	英米文芸表象論講義A・B (重複履修可) 英米文芸表象論講義IA・Bおよび／もしくはIIA・B (重複履修可) 英米文芸表象論演習IA・B (重複履修可) 英米文芸表象論演習IIA・B (指導教員の開講科目を履修することが必修)	ドイツ文芸表象論演習A・B (重複履修可、指導教員の開講科目を履修することが必修) ドイツ文芸表象論講義A・B (重複履修可)
	卒論のテーマ、調査・研究方法、および論文の作成方法などについては、英米文芸表象論では奥田敏広(ドイツ小説)が、それぞれ個別に応じます。9月末頃には、卒論中間発表会を予定しています。	



3年生 (卒論に備えて)	英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講義IA・Bおよび／もしくはIIA・B (上記科目は、1～2回生時に履修した場合も重複が可能です。) 英米文芸表象論演習IA・B	ドイツ文芸表象論講義A・B、ドイツ文芸表象論演習A・B ドイツ文芸表象論講義A・B、 (文明構造論演習III、文明構造論演習IV)
	3回生では、自分の興味のあるテーマに関連した学部科目や、卒論研究を進めるうえで必要な力を養うための学部科目を中心に履修することを勧めます。卒論のテーマをいくつか挙げながら、徐々に焦点を絞り込んでいくこと。各教員が個別に相談に応じます。	



1～2回生	英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講義IA・Bおよび／もしくはIIA・B (着実な語学力を鍛えるために、1回生から履修可能な講読 クラスに積極的に参加することを勧めます。)	ドイツ文芸表象論講義A・B、英米文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論講義A・B (文明構造論III、文明構造論IV)
全学共通 科目	幅広く文学・思想・歴史・国際関係などに関する授業を履修してください。視野を広げると同時に、今後の自らのテーマを決める上で役に立ちます。また、英語なりドイツ語などの語学力をしっかりと身につけましょう。	

《認知情報学系、認知行動科学関係》 ＝先輩からの履修アドバイス＝

● まず始めに

この学部には様々な学びとの出会いの場が提供されています。学部内に多種多様な分野の教授を抱えているだけでなく、他学部の授業が単位として認められやすいなど、非常に恵まれた環境が整っています。

しかし、この利点は同時に欠点にもなり得ることを頭の隅に入れて置いて下さい。学びは向こうから勝手に提供されるものではありません。特に総合人間学部はその色が強く、自ら主体的に動かないと何をしたいか分からなくなってしまうかもしれません。京大一自由な環境を生かすも殺すもあなた次第です。せっかく総合人間学部合格しこの貴重なチャンスを手に入れているのですから、この学部の利点を最大限に活かし、主体的に動いていきましょう！

● 私の履修表（科目名が変更されており要注意！）

	主専攻	副専攻	全学共通	履修科目
一回	14	2	20	全学共通、入門科目中心
二回	12	14	10	視覚科学 A、運動科学 社会学基礎論、心理学基礎論 A
三回	22	4	2	認知機能論 分子運動医科学ゼミ、運動の生理学
四回	8	0	0	認知神経心理学基礎ゼミ A 記憶機能論

入門科目は各教授が自らの研究を分かりやすく説明してくれるので、色々な分野に興味を持つ事が出来ます。私は入門科目と全学共通科目を中心に取りました。

興味のある分野について、主専攻副専攻問わず、基礎的な知識が得られる授業を取っていました。

自分の専門分野を認知・行動科学関係と決め、ゼミなどの応用的な知識が得られる授業を取っていました。

自分の研究分野に関わる主専攻科目だけを受けながら、卒業論文の作成に集中しました。

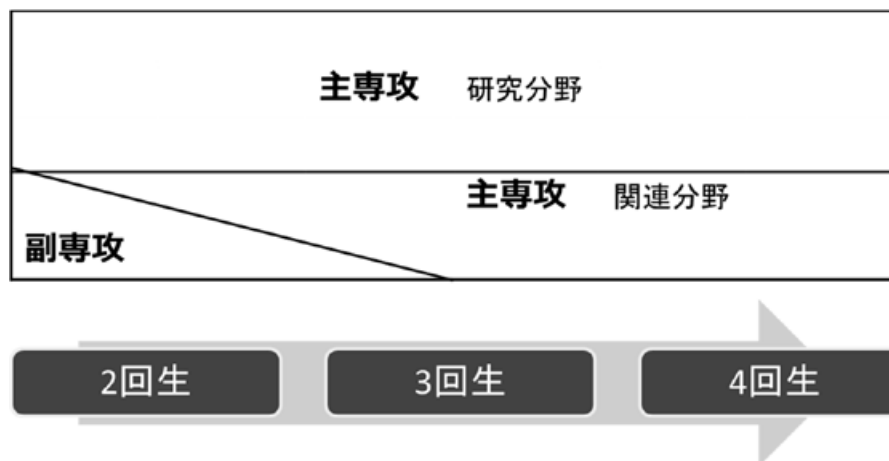
なお、**認知科学・心理学**に興味のある方は、研究の方法論を学ぼうと、以下の科目の履修が強く推奨されています。

- 1 回生** 心理学研究法入門（前期）
 心理学研究法演習（後期）
- 2 回生** 心理学実験（前期）

履修の仕方が周りと違ってくるのは二回生からだだと思います。私が考えた幾つかの履修パターンを提示しておくので、自分なりのパターンを作る参考にしてみてください。

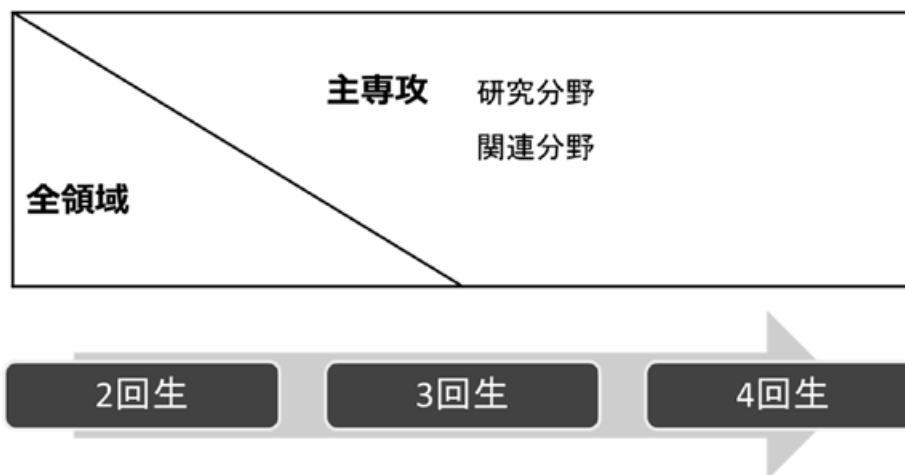
● 履修パターン

1. じっくり総合人間する



自分のやりたい事を決めていて、着実に研究分野を探索していきたい人向けのパターン。三年間かけて研究分野を学びつつ、平行して同じ学系で関連した研究を行っている教授の講義も聴いていくという流れです。毎年同じペースで単位を取っていくので、マイペースに進めていきたいという人向けでもあります。

2. もっと総合人間する



まだまだ自分の専門分野が決められないという人は、二回生のうちは専門分野を限定せず色々な分野の講義を取ってみましょう。専門分野の単位は三回生からで十分に合いますし、主専攻にならなかった分野の単位を副専攻にしていれば無駄も省けるので心配しなくても大丈夫です。メリットとしては未知の分野に挑戦する事で、より良い研究対象を見つける事が出来る可能性があります。

3. 自分なりの総合人間学を見つける



総合人間学部では三回生の内に授業による単位を全て取ってしまうことが可能で、卒論を書く事を除いて四回生の一年間好きな事をする事も出来ます。大学生だからといって、大学だけで学ぶ必要は必ずしも無く、学びの場は学外にもいっぱい存在しています。主体的に学ぶよい経験にもなるので、学校から解放される期間を作る事も良いことだと思います。

● 研究室&卒業論文について

1. 研究室の配属

私達の時は三回生の後期に研究室に配属されました。同じ学系であっても研究室によって雰囲気が全く違うので、配属される研究室を決定する前に、実際に自分の興味のある研究室に足を運んでみてはどうでしょうか（私のときは学系ごとの研究室ツアーがありました）。就職される方は就職活動など自分の行いたいこととの兼ね合いもあると思うので、しっかり先生と相談しながら研究室を決めることをオススメします。

2. 配属後～卒業論文制作

三回生後期から実際に研究室に通いだし、先輩の研究を手伝うなどしながら卒業論文のテーマについて模索しました。私は卒業論文のテーマを四回生の春に決定し、実際に実験を始めたのは夏からでした。卒業論文の提出は一月末で、発表が二月初旬です。この時期は本当に忙しく、修羅の毎日です。思っているより時間が無いので、先生や先輩の話を聞きながら早め早めの準備を大切にしましょう！

数理情報論関係モデル履修表

学年	コア科目	関連科目
1	微分積分学 (講義・演義) A・B [mi][前・後] 線形代数学 (講義・演義) A・B [mi][前・後] 情報数学 I・II [i][前・後] 情報基礎 (全学向) [i][前] 情報ネットワーク [i][後] プログラミング演習 (Ruby) [i][後]	現代数学の基礎 A・B [m][前・後] 情報数学 I・II [m][前・後] 情報基礎演習 (全学向) [i] コンピュータグラフィックス実習 [i][前][後]
2	微分積分学続論 I－ベクトル解析 [m][前] 微分積分学続論 II－微分方程式 [m][後] 線形代数学続論 [m][前] 集合と位相 [m, 理学部][前] 集合と位相演習 [m, 理学部][前] 数理論理学 A・B [mi][前・後] 情報ネットワーク [i][後]	確率論基礎 [m][前] 解析学入門演習 [m, 理学部][後] 集合と位相 [i, 理学部][前] 集合と位相演習 [i, 理学部][前] 基礎数学からの展開 A[m, 理学部][前]
2・3	実解析 A・B [m, 隔年][前・後] 関数論 [m][後] 複素解析 [m, 隔年][前] 数理現象論 A・B [m, 隔年][前・後] 数理構造論 A・B [m, 隔年][前・後] 数理科学ゼミナール [mi, 重複履修可][前] 数理科学特論 I,II,III [mi][後] 計算と位相 [mi, 隔年][前] 計算論 [i, 隔年][前] 計算機科学の基礎 A・B [i, 隔年][前] 情報処理の方法と演習 A・B [i, 隔年][前] 機械学習の基礎 [i][前] 人工知能 [i][後] プログラミング演習 (Lisp) [i][前] プログラミング演習 (Haskell) [i, 隔年][後] プログラミング演習 (Java) [i][前] プログラミング演習 (数理的応用) [i][後] プログラミング演習 (Matlab) [i][前]	非線型数学 [m][前] 非線型数学セミナー [m][後] 代数学入門 [m, 理学部][後] 代数学入門演習 [m, 理学部][後] 幾何学入門 [m, 理学部][後] 幾何学入門演習 [m, 理学部][後] 基礎演習: Intro to Computation and Logic [i][前] Information Network [i][後] その他, 全学共通科目や理学部・工学部等で開講されている数学・情報科学関連の科目
4	数理科学論講究 [mi][通年] 数理科学ゼミナール [mi, 重複履修可][後] 数理科学特論 I,II,III [mi][後]	

- この表は、主に数学に興味のある人向けと情報科学に興味のある人向けの、2通りの履修モデルを表しています。数学に興味のある人は表中の [] の中に m のついた科目を、情

報科学に興味のある人は i のついた科目を見てください。なお [前], [後] などは開講時期を示しています。

- [] の中に「理学部」とある科目は理学部の専門科目、特に明示のない科目は全学共通科目、または総合人間学部の専門科目です。理学部・工学部等で開講されている数学・情報科学関連の科目も 16 単位まで主専攻科目として認められるので、積極的に履修してください。
- 将来どのような研究を行うにもここに掲げた「コア科目」は重要ですので、可能な限り履修してください。必要と興味に応じて「関連科目」も履修してください。また、数学と情報科学は密接に関係しているので、m のついた科目だけ、i のついた科目だけに制限せず、それ以外の科目も積極的に受講することを勧めます。
- 特に「微分積分学 (講義・演義) A・B」と「線形代数学 (講義・演義) A・B」はすべての数学の基礎であり、情報科学のためにも重要です。1 回生のときに十分時間をかけて学んでください。
- 数学や情報科学を学ぶ理想的な形態はセミナーです。卒業研究指導もセミナー形式で行われます。「数理科学ゼミナール」はセミナー形式に早い段階で触れる機会として設けられていて、2～4 回生の間に複数回履修することができるので、なるべく早いうちに、可能な限り 2 回生で是非受講してください。
- 「数理科学論講究」は卒業研究に平行して専門的内容を学ぶための科目です。
- 「数理科学特論 I, II, III」は学外から招いた講師による 1 週間の集中講義です。特定のテーマについて基礎的な部分から先端的な内容までを紹介し、前期の終わり頃に掲示があるので注意してください。
- 理学部科目の「現代数学の基礎 A・B」は微分積分学 A・B の内容を更に厳密に講義するもので、将来数学を専攻する学生向けのものです。
- 理学部科目の「解析学入門演習」「代数学入門演習」「幾何学入門演習」は問題演習を小テスト形式で行う科目です。扱う内容はそれぞれ、ベクトル解析と微分方程式と関数論、群・環・体・加群などの代数系 (=代数学入門の内容)、多様体論の初歩 (=幾何学入門の内容) です。数学を専攻したい学生は是非履修することを勧めます。
- 「複素解析 [隔年]」は「関数論」を履修した後に受講することを勧めます (「複素解析」の内容は「関数論」に引き続くものです)。

☆☆☆認知情報学系 言語科学関係の履修モデル☆☆☆

1. はじめに

言語科学関係で勉強するのは、ひと言で言えば「コトバの研究」です。みなさんは高校で英語を学び、大学に入ってその他の外国語を学んでいるでしょう。英語やその他の外国語は、日本語とは使う文字もちがい、発音も文法もちがっています。なぜこんなに多様な言語が存在するのか実に不思議です。もっと不思議なのは、これだけ異なる言語を用いて、人々はほぼ同じ意味を相手に伝えているということです。

コトバは狭義の言語学の研究対象となるだけではありません。私たちの思考を支えコミュニケーションの道具として働いています。私たちはコトバなしには考えることができず、また意思の伝達なしには社会も成り立ちません。このため言語科学は、哲学、心理学、脳科学、認知科学、生物学、社会学、人類学、計算機科学などと密接なつながりを持っています。この意味で、「人間とは何か」を幅広く問う総合人間学部の目標に最もふさわしい学問だと言えるでしょう。

2. この関係で勉強できること

言語科学関係に所属する教員は、大きく二つのグループに分かれています。一つ目は大学院人間・環境学研究科で〈言語情報科学分野〉に属している教員で、理論言語学を研究しています。理論言語学とは、人間の言語能力の特性やその使用、他の認知能力との関係、談話によるコミュニケーションなどを、モデル化することで説明しようとする学問です。認知言語学、生成文法、談話機能文法などの言語理論に基づき、コトバの仕組みと働きを通してヒトの心の機序を解明しようとしています。

二つ目は大学院で〈言語比較論分野〉に属している教員です。この分野では比較言語学や対照言語学と呼ばれている領域を軸として、現地調査や実験的手法なども駆使し、実際の言語データを用いた実証的な方法で、言語体系の法則性・普遍性や言語変化のメカニズムを探っています。

みなさんはこの関係の教員の講義や演習を通じて、コトバを研究することのおもしろさに触れ、同時にコトバがいかに精妙に作り上げられているかを、さまざまな面において感じることができるでしょう。

3. 全学共通科目について

みなさんが最初にコトバの研究に触れることができるのは、全学共通科目の「言語科学」です。この科目では言語科学関係に所属する教員が、特定の分野に偏らずに幅広くコトバの科学について講義しています。1回生から履修できますので、ぜひ受講することを勧めます。また哲学、論理学、心理学、人類学などにも言語に関係の深い講義がありますので、こういった講義にも出席するとよいでしょう。

しかし何と言っても言語科学にいちばん深く関わるのは外国語科目群です。コトバを研究する人はコトバを深く知らなくてはなりません。1回生・2回生のあいだに外国語科目をしっかり勉強し

てください。いろいろな外国語を勉強するなかで、なぜイタリア語ではていねいに「あなた」と言うときに3人称の代名詞を使うのかとか、なぜロシア語には完了体と完了体という動詞の区別があるのかとか、なぜ日本語では探していたものを見つけたときに「あった」と過去形を使うのかなどの疑問を持つようになるでしょう。このような疑問が学問のタネになるのです。

4. 学部専門科目について

1回生・2回生のうちは全学共通科目を中心に履修していて、自分がおもしろいと思えるものを探している段階ですので、それほど専門性は求められません。ですから幅広くいろいろな講義を履修するのがよいでしょう。

しかしいつまでも幅広く勉強しては、学問に求められる〈深く追求する〉ということができません。3回生になったらそろそろ「自分は英語の語順の歴史を研究してみよう」とか、「日本語の敬語を研究しよう」とか、研究対象の言語と研究テーマを考えなくてはなりません。言語科学関係では3回生の後期から指導教員を決めることになっています。ですから3回生になったら、そのことを意識して講義・演習を選び、教員に個人的に相談に行くことを勧めます。総合人間学部は、じっと待っていればほどよく調理されたメニューが出て来るという所ではありません。学生諸君が自分から探しに行かないといけない場所です。教員アドバイザーに相談したり、授業のあとで教員に質問するなど、自分から積極的に行動するようにしてください。総合人間学部の特色ある環境を生かすも殺すもあなた次第なのです。

4回生の初めに「研究題目届」という儀式があります。やがては卒業論文という形になる研究テーマを選んで届けるのです。「英語の be 受動文と get 受動文に関する機能的な研究」とか、「日本語の終助詞『ね』の認知機能」のように具体的なテーマを届けなくてはなりません。そのためには3回生の後期から指導教員と相談し、読むべき本を推薦してもらったりする必要があります。そのためには3回生の初めあたりから、〈幅広く勉強〉から〈焦点を絞って勉強〉という方向に少しずつ転換していかななくてはなりません。

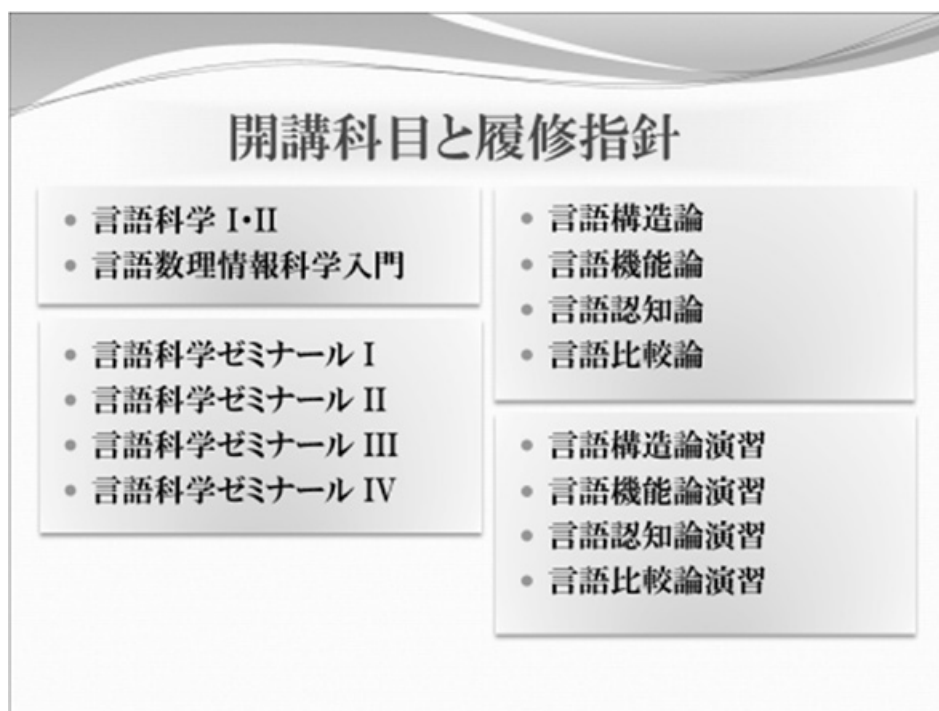
5. 卒業論文について

総合人間学部では、がんばれば3回生まででほぼ卒業に必要な単位を取ることができます。4回生は丸々卒業論文に当てることができるよう、3回生までにできるだけ単位を取っておくのがよいでしょう。卒業論文はみなさんの4年間の勉強の集大成です。そこに今まで勉強してきたことのすべてが現れます。

3回生の後期から指導教員が決まりますので、後期の半年をかけて指導教員と相談して卒論のテーマを決めます。4回生の初めに「研究題目届」を提出して、いよいよ具体的に卒論の製作に入ります。これからが修羅の道ですが、卒論完成までの具体的な道程と方法は指導教員によってそれぞれちがいますので、ここでは詳しくは述べません。

6. 履修モデルチャート

以下に履修モデルチャートを示しますが、これはあくまで参考にすぎません。これを参考にして自分に合った履修計画を立ててください。



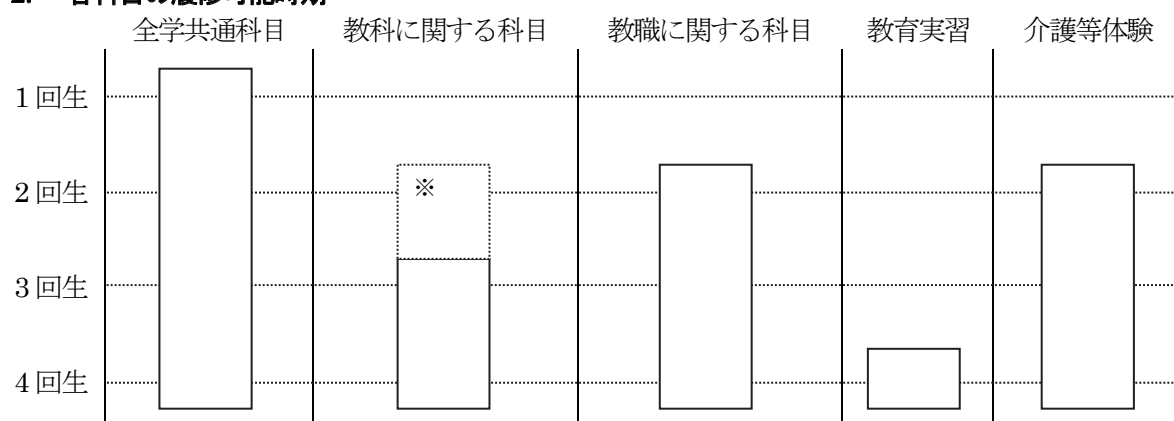
京都大学総合人間学部における英語教諭免許状取得について

1. 京都大学で取得できる教育職員免許状

- ・ 高等学校教諭一種免許状／専修免許状
- ・ 中学校教諭一種免許状／専修免許状
- ・ 特別支援学校教諭一種免許状

近年重視されている「専修免許状」は、大学院修士課程に在籍し、規定の単位修得が必要です。総合人間学部生のみなさんが英語の教員免許状を取得する場合は、上記の「高等学校一種」、「中学校一種」のいずれか、または両方を取得することになります。

2. 各科目の履修可能時期

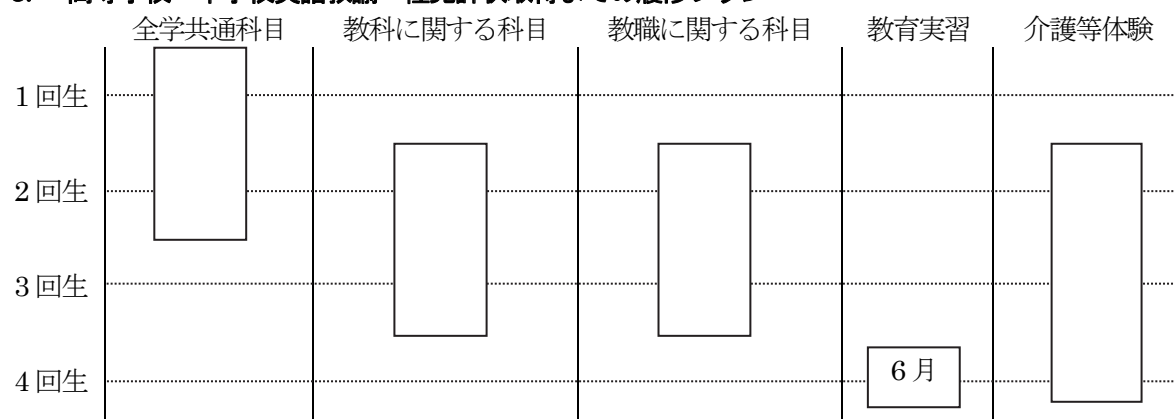


各科目の一例

- ・ 全学共通科目：「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」
- ・ 教科に関する科目：「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」
- ・ 教職に関する科目：「教職教育論」「教育方法論」「英語科教育法」「道德教育論（中学）」
- ・ 教育実習：「教育実習Ⅰ（中学）」「教育実習Ⅱ」
- ・ 介護等体験（中学）

※ 英語の場合、「教科に関する科目」はすべて総合人間学部提供の授業において取得することが可能で、そのほとんどが2回生から履修できます。しかし、「教職に関する科目」はすべて教育学部開講なので、**総人の履修登録とは別に教育学部で教職科目専用の履修登録をする必要があります！** 注意しましょう。

3. 高等学校・中学校英語教諭一種免許状取得までの履修プラン



4. 教育実習について

- ・ 説明会（3 回生の 4 月中旬）
- ・ 事前指導（4 回生の 4 月中旬、5 月上旬）
- ・ 実習（原則として出身校で実施。中学校免許状希望者は 4 週間、高等学校免許状希望者は 2 週間。実習時期は各学校により異なるが、たいていは 5～6 月か 9～10 月に実施）
- ・ 事後指導（10 月中旬～12 月）

＊ 「教科に関する科目」、「教職に関する科目」の単位取得が順調でない場合、教育実習の参加資格が与えられないことがあります。3 回生終了までに大部分の単位を揃えておくようにしましょう。

5. 介護等体験について（通常 2 回生で実施）

- ・ 中学校教諭免許状取得希望者のみ必修
- ・ 特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間、合計 7 日間
- ・ 原則として出身都道府県で実施
- ・ 4 月・10 月に次期参加希望者を対象とした説明会を実施

6. 教員採用試験について（都道府県により異なる）

- ・ 5 月に願書配布、提出
- ・ 7 月に一次選考、9 月に二次選考

7. 先輩からのアドバイス

- ・ 総合人間学部と教育学部の掲示板、特に教免関係の掲示はこまめに確認すること。説明会の開催や、各種提出物に関する掲示が突然行われます。掲示期間が短いことが多々あり、困惑したり不利益を被ったりするので要注意です。
- ・ 様々な説明会や提出物があり、厳しく時期が決められています。神経質に掲示を確認し、遅滞なく出席・提出しないと、認められないことがあるので要注意です。
- ・ 教免科目が総人の卒業単位とどのように関係してくるのかを調べておくこと。とくに「教科に関する科目」は所属学系によっては卒業単位と教免単位の両方にカウントできるものがあるため、効率的な単位取得が可能になる場合があります。

例：認知情報学系の学生が「言語構造論 A」を取得する場合など。

- ・ 教免関係の科目数（つまり必要単位数）が他の学生に比べ格段に多いので、覚悟するとともに、全共科目は 1 回生、教科と教職科目は 2 回生と 3 回生で確実に履修すること。ほぼ毎日、1 日中授業が入ります。教員養成大学では全員が同じ決められたスケジュールで動くので混乱はないですが、本学ではあくまでもオプションなので、自己管理が必要です。最後に掲載したチェック表を活用し、きちんと確認しましょう。
- ・ 可能な限り英語に関する様々な分野（主に英語学と英米文学、文化論など）を履修することが望ましい。採用試験で生きてくるとともに、英語教員として備えておくべき最低限度の知識が提供されています。
- ・ 近年、読む・書くはもちろんのこと、聞く・話す技能が要件とされており、機会を見つけて研鑽を積むことが大切です。採用にあたっては、英語圏での生活・勉強経験が非常に重視されています。

＊ この資料は外国語教育論講座所属大学院生 YH くん、JS くんの協力で作成されました。**あくまでも目安・参考資料ですので当該年度の案内に従ってください。**変更されている点やアドバイスなどは気軽に中森准教授までお知らせください。

めざせ 教員免許取得！ 必要事項チェックリスト

本学学生が教員免許を取得する場合、最も大切なことは「スケジュールの自己管理」です。説明会の実施や書類の提出に関する連絡は掲示によってしか行われない場合がほとんど。よって学生はつねに、「何月ごろに〇〇をし、△△の掲示が出るはずだ」ということを頭に叩き込んでおかねばなりません。うっかり時期を逃して必要な手続きを逃してしまった！ ということの無いように注意しましょう。

【1～2 回生時】

- ☐ 全学共通科目の必要単位は取得したか？
日本国憲法、スポーツ実習、語学、情報機器の操作はすべて必修となっています。なるべく1回生の間に習得しましょう。
- ☐ 教科に関する科目、教職に関する科目を履修しているか？
これらはほとんどが2回生から履修可能です。とくに各教科教育法は通年登録が必要であるため、他の授業との重複が無いよう、年間計画をしっかりと立てた上で登録しましょう。
- ☐ 介護等体験の参加申し込みは済んだか？（4月・10月）
中学一種免許状を取得する場合は必修です。

【3 回生時】

- ☐ 母校に教育実習参加のお願いをしたか？
教育実習の参加申し込みは**実施の1年前に行います！**4月の中～下旬になったら**自分で母校を訪問し（または電話をかけ）**、「来年度の教育実習に参加したい」との旨を伝え内諾をもらう必要があります。近年では実習希望者の増加に伴い、「電話を掛けた頃にはすでに母校側の定員が一杯だった」という事例も見られます。あまり連絡が遅くならないよう注意しましょう。
- ☐ 総人の教務係で必要書類をもらってきたか？（4月下旬）
大学提出用の申込書や、母校に提出する内諾書などがまとめられています。教務係の窓口を訪れ、早めに手に入れましょう。
- ☐ 教育学部で行われる説明会に参加したか？（4月中旬）
説明会に参加した上で、担当の教員から上記の書類に押印を受ける必要があります。
合は必修です。

【4 回生時】

- ☐ 教育実習事前指導に参加したか？（4月中旬）
総人教務係で「教育実習ノート」をもらい、必ず事前指導に参加して押印を受けましょう。**全体指導と教科別指導の両方に参加**しなければなりません。
- ☐ 教育実習ノートを提出したか？（実習終了後）
- ☐ 教科別事後指導に参加したか？（10～12月）
事前指導とは違い、こちらには全体指導はありません。掲示をよく見て、教科毎に指示される日時・場所にて指導を受けましょう。
- ☐ 教員免許の申請は済んだか？（10～11月）
教員免許は、**必要単位を取得し、教育実習を済ませるだけで自動的に手に入るものではありません！**京都府に申請料を納めた上で、自分で書類申請する必要があります。4回生後期に入ったら掲示に目を光らせましょう。**一次申請および二次申請が必要である**という点にも注意してください。
- ☐ 卒業式に出よう！（3月）
実際に「教員免許状」が皆さんの手元に届くのは卒業式の日です。全体の卒業式の後、総人で開催される学位授与式で学位記と共に手渡されます。「これが教員免許か……！」と感動ものです。胸を張って友人に自慢するのもよいでしょう。

国際文明学系 社会相關論関係・歴史文化社会論関係横断型
多文化社会論を中心に
履修モデル (文責 齋藤嘉臣)

主：主専攻科目 入：学系入門科目 外：外国語科目（第1/第2）
自：自由科目（幅広く修得すること） 他：他学系開講科目
副専攻科目は省略 卒：卒業論文 / 卒業研究

〈1回生 前期〉 16科目

入：国際文明学入門 A	入：人間科学入門
主：社会経済システム論 I A	主：国際政治論 I
主：政治学 I	主：日本国憲法
主：基礎演習：国際政治論	主：中国文字文化論
外1：英語	外1：英語
外2：○語	外2：○語
自：哲学・文化史 I 等	自：任意

〈1回生 後期〉 16科目

入：国際文明学入門 B	入：文化環境学入門 A
主：社会経済システム論 I B	主：国際政治論 II
主：国際法入門	主：経済学 II
主：政治学 II	主：中国書誌論
外1：英語	外1：英語
外2：○語	外2：○語
自：任意	自：任意

〈2回生 前期〉 14科目＋副専攻科目

主：多文化社会論 I A	主：現代社会論 IV A
主：国際関係論 I A	主：国際関係論 IV A
主：国家・社会法システム論 III A	主：文明構造論 I A
他：文化交渉複合論 A	
外1：英語	外1：英語
外2：○語	
自：任意	

〈2回生 後期〉 14科目＋副専攻科目

主：多文化社会論演習ⅠA

主：公共政策論Ⅰ

主：国際関係論ⅠB

主：法学

主：国家・社会法システム論ⅠA

主：文明構造論ⅠB

主：欧米歴史社会論ⅡB

他：文化交渉複合論B

外1：英語

外1：英語

外2：○語

自：任意

〈3回生 前期〉 12科目＋副専攻科目

主：国際関係論演習ⅠA

主：欧米歴史社会論演習ⅠA

主：社会経済システム論演習ⅠA

主：西欧近現代表象文化論演習（Ⅰ－Ⅳ）A

主：現代社会論演習ⅠA

他：比較バラダイム文明論A

自：文学部開講科目

〈3回生 後期〉 12科目＋副専攻科目＋卒業論文準備

主：国際関係論演習ⅠB

主：欧米歴史社会論演習ⅠB

主：多文化社会論演習ⅠA

主：西欧近現代表象文化論演習（Ⅰ－Ⅳ）B

主：文明構造論ⅡB

他：比較バラダイム文明論B

自：文学部開講科目

主：卒業論文（指導）

〈4回生 前期〉 2科目＋指導論文

主：国際関係論演習ⅠA

主：文明構造論演習ⅠA

主：卒業論文（指導）

〈4回生 後期〉 2科目＋指導論文

主：多文化社会論演習ⅠA

主：文明構造論演習ⅠB

主：卒業論文（指導）

主：主専攻科目 入：学系入門科目 外：外国語科目（第一、第二） 自：自由科目
副専攻科目は省略

<一回生 前期>

入：国際文明学入門 A 入：他学系開講科目
主：国際政治論 I 主：基礎演習：国際政治論
主：政治学 I 主：経済学 I
主：社会経済システム論 I A 主：日本国憲法
外一：英語 外一：英語
外二：○語 外二：○語
自：任意の科目 自：任意の科目

<一回生 後期>

入：国際文明学入門 B 入：他学系開講科目
主：国際政治論 II 主：国際政治論基礎ゼミナール
主：政治学 II 主：経済学 II
主：国際法入門 主：社会経済システム論 I B
外一：英語 外一：英語
外二：○語 外二：○語
自：任意の科目 自：任意の科目

<二回生 前期>

主：国際関係論 I A 主：国際関係論 IV A
主：現代文明論 IV A 主：多文化社会論 I A
主：文明構造論 I A 主：国家・社会法システム論 II A
主：文明構造論 II A 主：国家・社会法システム論 III A
外一：英語 外二：○語
自：任意の科目 自：任意の科目 自：任意の科目

<二回生 後期>

主：国際関係論 I B 主：公共政策論 I
主：法学 主：現代文明論 IV B
主：多文化社会論演習 I A 主：国家・社会法システム論 I A
主：文明構造論 I B
外一：英語 外二：○語
自：任意の科目 自：任意の科目 自：任意の科目

<三回生 前期>

主：国際関係論演習 I A 主：現代社会論演習 I A
主：社会経済システム論演習 I A 主：公共政策論演習 I A
主：文明構造論演習 III A 主：公共政策論演習 II A
主：卒業論文（指導）
自：任意の科目 自：任意の科目 自：任意の科目

<三回生 後期>

主：国際関係論演習ⅠB 主：統治機構論

主：国家・社会法システム論演習ⅡB 主：公共政策論演習ⅠB

主：文明構造論ⅡB 主：卒業論文（指導）

自：任意の科目 自：任意の科目 自：任意の科目

<四回生 前期>

主：国際関係論演習ⅠA 主：文明構造論演習ⅠA

主：卒業論文（指導）

<四回生 後期>

主：国際関係論演習ⅠB 主：文明構造論演習ⅠB

主：卒業論文（指導）

2017 年度 国際文明学系社会相關論関係
「国家・社会法システム論」履修モデル

I. 所属教員

本分野は法学を中心に構成されています。

- ・ 小畑 史子（おばた ふみこ）教 授 （労働法）
- ・ 那須 耕介（なす こうすけ）准教授 （法哲学）
- ・ 見平 典 （みひら つかさ）准教授 （憲法・司法政治）

II. 履修モデル

法学を中心に社会科学系の諸科目を履修し、人間や社会を見る目を養います。

主：主専攻科目 入：学系入門科目 外：外国語科目（第 1／第 2 外国語）
自：自由科目 卒：卒業論文／卒業研究 ※副専攻科目は省略

■1 回生前期【15 科目】

入： 国際文明学入門 A	入： 他学系開講科目
主： 法学	主： 日本国憲法
主： 労働と法	主： 政治学 I
主： 任意の講義科目	主： 任意の講義科目
主： ※ 1 の基礎演習科目	主： ※ 1 の基礎演習科目
外①：英語	外①：英語
外②：○語	外②：○語
自：	

■1 回生後期【15 科目】

入： 国際文明学入門 B	入： 他学系開講科目
主： 契約関係原理論	主： 統治機構論
主： 思想と法	主： 政治学 II
主： 任意の講義科目	主： 任意の講義科目
主： ※ 2 の基礎ゼミナール科目	主： ※ 2 の基礎ゼミナール科目
外①：英語	外①：英語
外②：○語	外②：○語
自：	

■2回生前期【13科目＋副専攻2科目】

主： 国家・社会法システム論ⅡA

主： 社会経済システム論ⅠA

主： 多文化社会論ⅠB

主： 任意の科目

外①：英語

自：

自：

主： 国際関係論ⅠA

主： 社会経済システム論ⅢA

主： 文明構造論ⅢA

主： 任意の科目

外②：○語

自：

■2回生後期【13科目＋副専攻2科目】

主： 国家・社会法システム論ⅠB

主： 国家・社会法システム論ⅢB

主： 社会経済システム論ⅠB

主： 文明構造論ⅢB

外①：英語

自：

自

主： 国家・社会法システム論ⅡB

主： 国際関係論ⅠB

主： 公共政策論Ⅰ

主： 任意の科目

外②：○語

自：

■3回生前期【12科目＋副専攻2科目】

主： 国家・社会法システム論ⅢA

主： 国家・社会法システム論演習ⅡA

主： 社会経済システム論ⅢB

主： 文明構造論ⅠA

主： 任意の科目

自： 法学部開講科目

主： 国家・社会法システム論演習ⅠA

主： 国家・社会法システム論演習ⅢA

主： 多文化社会論ⅠA

主： 文明構造論ⅣA

主： 任意の科目

自：

■3回生後期【12科目＋副専攻2科目＋卒論指導】

主： 国家・社会法システム論ⅠA

主： 国家・社会法システム論演習ⅡB

主： 公共政策論Ⅱ

主： 文明構造論ⅠB

自： 法学部開講科目

自：

主： 卒業論文（指導）

主： 国家・社会法システム論演習ⅠB

主： 国家・社会法システム論演習ⅢB

主： 多文化社会論ⅠB

主： 文明構造論ⅣB

自：

自：

■4 回生前期【2 科目＋副専攻 2 科目＋卒論指導】

主： 国家・社会法システム論演習Ⅰ A or Ⅱ A or Ⅲ A

主： 任意の演習科目

主： 卒業論文（指導）

■4 回生後期【2 科目＋副専攻 2 科目＋卒論指導】

主： 国家・社会法システム論演習Ⅰ B or Ⅱ B or Ⅲ B

主： 任意の演習科目

主： 卒業論文（指導）

※1 基礎演習 労働と法
基礎演習 思想と法
基礎演習 現代社会と法

※2 労働と法 基礎ゼミナール
思想と法 基礎ゼミナール
現代社会と法 基礎ゼミナール

Ⅲ. 進 路

法学を学ぶことを通して磨かれる、論理的思考力や人間・社会に対する洞察力・分析力は、社会の様々な分野で求められています。特に、法曹界（裁判官・検察官・弁護士）、政界（議員・政策秘書）、官界（国家公務員・地方公務員）、マス・メディア（新聞社、出版社、テレビ局）、シンクタンク等を志望する学生さんは、ぜひ本分野の履修を検討してみてください（もちろん、その他の職種を志望する学生さんも広く歓迎しています）。なお、本分野で卒業論文を執筆した先輩は、以下のように、現在社会の多方面で活躍しています（以下は、2009-2016 年度卒業生）。

■進学

京都大学大学院人間・環境学研究科、京都大学大学院法学研究科（3 名）、京都大学公共政策大学院、東京大学公共政策大学院（3 名）、東北大学公共政策大学院、一橋大学大学院社会学研究科、早稲田大学大学院法務研究科、中央大学大学院法学研究科

※法科大学院修了後、司法試験に合格し、既に裁判官・弁護士として活躍している先輩もいます。

■就職

東京都庁、兵庫県庁、福岡県庁、京都市役所、神戸市役所、京都府警察、大阪国税局、三菱東京 UFJ 銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、農林中央金庫、有限責任監査法人トーマツ、テレビ朝日、共同通信社、三井物産、住友電気工業、日本写真印刷、東京 YMCA

国際文明学系 社会相関論関係 社会経済システム論グループ
履修モデル (文責 大黒弘慈)

主：主専攻科目 入：学系入門科目 外：外国語科目 自：自由科目
副専攻科目は省略

1回生 前期

入：国際文明学入門 A	入：他学系入門科目
主：社会経済システム論 I	主：経済学 I (経済思想)
主：基礎演習：経済思想	
自：現代の経済学 I	自：現代経済社会論 I 他、任意
外 1：英語リーディング	外 1：英語ライティング・リスニング A
外 2：○語 I A	外 2：○語 I A

1回生 後期

入：国際文明学入門 B	入：他学系入門科目
主：社会経済システム論 II	主：経済学 II (経済思想)
主：経済原論基礎ゼミナール	
自：現代の経済学 II	自：現代経済社会論 II 他、任意
外 1：英語リーディング	外 1：英語ライティング・リスニング B
外 2：○語 I B	外 2：○語 I B

2回生 前期

主：社会経済システム論 III A	主：社会統計学実習 A
主：比較経営組織論 A/B	主：国際関係論 IV A
主：現代社会論 I A	主：現代社会論 II A
主：現代経済文明論 I A	
自：任意	
外：英語 (E 科目)	外：英語 (E 科目)
外：○語 II A	外：○語 II A

2回生 後期

主：社会経済システム論ⅢB

主：現代社会論ⅠB

主：経済学ⅡB

自：任意

外：英語（E科目）

外：○語ⅡB

主：社会統計学実習 B

主：現代社会論ⅡB

外：英語（E科目）

外：○語ⅡB

3回生 前期

主：社会経済システム論演習ⅢA

主：社会経済システム論演習ⅠA

自：任意

主：現代社会論演習ⅡA

3回生 後期

主：比較経営組織論 B/A

主：社会経済システム論演習ⅢB

主：社会経済システム論演習ⅠB

自：任意

主：国際関係論ⅣB

主：現代社会論演習ⅡB

主：現代経済文明論ⅠB

4回生 前期

主：社会経済システム論演習ⅢA

主：社会経済システム論演習ⅠA

主：卒業論文

主：現代社会論演習ⅠA

4回生 後期

主：社会経済システム論演習ⅢB

主：社会経済システム論演習ⅠB

主：卒業論文

主：現代社会論演習ⅠB

国際文明学系 社会相関論関係 公共政策論分野
履修モデル (文責 佐野亘)

主：主専攻科目 入：学系入門科目 外：外国語科目 自：自由科目
副専攻科目は省略

1 回生 前期

入：国際文明学入門 A	入：他学系入門科目
主：社会経済システム論 I A	主：法学
主：政治学 I	主：国際政治論 I
主：経済学 I	主：基礎演習：環境経済・政策論
自：任意	自：任意
外 1：英語リーディング	外 1：英語ライティング・リスニング A
外 2：○語 I A	外 2：○語 I A

1 回生 後期

入：国際文明学入門 B	入：他学系入門科目
主：公共政策論 I	主：環境と法
主：政治学 II	主：国際政治論 II
主：経済学 II	主：環境経済・政策論基礎ゼミナール
自：任意	自：任意
外 1：英語リーディング	外 1：英語ライティング・リスニング B
外 2：○語 I B	外 2：○語 I B

2 回生 前期

主：社会経済システム論 I	主：統計リテラシー
主：多文化社会論 I A	主：国家社会法システム論 I A
主：国家・社会法システム論 II A	主：国際関係論 I A
主：基礎演習公共政策論 I	
自：任意	
外：英語 (E 科目)	外：英語 (E 科目)
外：○語 II A	外：○語 II A

2回生 後期

主：公共政策論Ⅱ

主：比較経営組織論Ⅱ

主：国家・社会法システム論ⅡB

自：任意

外：英語（E科目）

外：○語ⅡB

主：公共政策論基礎ゼミナールⅡ

主：多文化社会論ⅡB

主：国際関係論ⅠB

外：英語Ⅱ（E科目）

外：○語ⅡB

3回生 前期

主：公共政策論演習ⅠA

主：国家・社会法システム論ⅢA

自：任意

主：公共政策論演習ⅡA

主：労働と法

3回生 後期

主：公共政策論演習ⅠB

主：国家・社会法システム論ⅢB

自：任意

主：公共政策論演習ⅡB

主：思想と法

4回生 前期

主：公共政策論演習ⅠA

主：卒業論文

主：公共政策論演習ⅡA

4回生 後期

主：公共政策論演習ⅠB

主：卒業論文

主：公共政策論演習ⅡB

国際文明学系 歴史文化社会論（歴史社会論関係） 履修モデル

【1～2回生（全学共通科目）】

歴史社会論（または歴史文化社会論・国際文明学系）の教員が担当する全学共通科目のほか、人文・社会科学科目、自然科学科目などから幅広く学識を身につける。1回生から学部科目に出席することができる。学系入門科目、外国語をもらさず履修しておく。

<歴史社会論教員担当・全学共通科目>

日本史Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）（以下、前期・後期省略）、西洋史Ⅰ・Ⅱ、Western HistoryⅠ・Ⅱなど

<歴史社会論教員担当・基礎演習・基礎ゼミナール科目>

基礎演習：日本古代・中世政治文化論Ⅱ、基礎演習：近世西洋史学、基礎演習：Contemporary History（以上、ILAS科目と同一科目）

日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ・Ⅱなど

<歴史文化社会論1回生履修可能科目>

中国文字文化論、中国書誌論、中国古典講読A・B、基礎演習：中国史の基礎資料、基礎演習：日本近代文学、西洋文化論基礎ゼミナールA・Bなど

【2回生】

歴史文化社会論2回生履修可能科目を履修し、専門的な研究にふれる。副専攻科目の履修にとりかかる。

<歴史文化社会論2回生履修可能科目>

欧米歴史社会論ⅠA・B・ⅡA・B（以下A・B省略）、学部特殊講義Ⅲ（以上、歴史社会論）、日本語学・日本文学Ⅰ～Ⅳ、書論・書写演習A・B、日本古典講読論Ⅰ・Ⅱ、日本語学文献講読論Ⅰ・Ⅱ、西欧近現代表象文化論Ⅰ～Ⅳ、西欧古代・中世表象文化論Ⅰ・ⅢBなど

【3回生】

卒業論文の内容と指導教員の選択を念頭に、欧米系か、日本系かのどちらかに重点をおいて履修する。あわせて、歴史文化社会論（または国際文明学系）から幅広く履修する。

<歴史社会論・欧米系科目>

欧米歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、欧米歴史社会論演習Ⅱ

<歴史社会論・日本系科目>

日本歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、日本歴史社会論演習Ⅰ・Ⅱ

<欧米系・日本系>学部特殊講義Ⅲ

【4回生】

指導教員と相談の上、卒業論文のテーマを決め、それに適した授業を履修する。

<歴史社会論・欧米系科目>

欧米歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、欧米歴史社会論演習Ⅱ

<歴史社会論・日本系科目>

日本歴史社会論Ⅰ・Ⅱ、日本歴史社会論演習Ⅰ・Ⅱ

<欧米系・日本系>学部特殊講義Ⅲ

国際文明学系 歴史文化社会論（東アジア文化論関係）

履修モデル

卒業に必要な単位数 140 ※数字は単位数

主：主専攻科目（48）

※「学部科目である講義科目」24 単位以上、「基礎演習・基礎ゼミナール科目」4 単位以上、「演習科目」4 単位以上を修得すること

入：学系入門科目（4）

外：外国語科目（24）

副：副専攻科目（20）

自：自由科目（32）

卒業論文（12）

※副専攻科目・自由科目については、具体的な記述を省略した。

〔1 回生〕 主 12（基礎演習・基礎ゼミ 4 を含む） 入 4 外 16 自 10

東アジア文化論・歴史文化社会論・国際文明学系の教員が担当する全学共通科目の他、人文・社会・自然科学系の科目を幅広く履修することをお勧めします。2 回生進級時に主専攻学系への分属が決まりますので、入門科目などを通じて各学系の特色を知り、希望する学系を絞り込んでゆきましょう（10 月下旬ごろに分属説明会があります）。1 回生から履修できる学部科目もあります。

《東アジア文化論関係の全学共通科目》

国語国文学、言学、日本近代文学、漢文学、中国文字文化論、中国書誌論、中国古典講読論、東洋史、東洋社会思想史、日本語学文献講読論、日本古典講読論、など

《東アジア文化論関係の基礎演習・基礎ゼミナール科目》

基礎演習（日本近代文学、中国史の基礎資料）、日本近代文学基礎ゼミナール、東洋史基礎ゼミナール I、など

《1 回生から履修できる学部科目（東アジア文化論関係）》

中国文字文化論、中国書誌論、中国古典講読論 A・B、など

〔2 回生〕 主 12 外 8 副 8 自 12

主専攻学系への分属が決定します。学部講義科目の履修を通じて、専門的な学問の世界を体験しましょう。東アジア文化論関係の学部講義科目は 2 回生から履修が可能です。同時に、副専攻をどれにするかを考えて科目を履修し、ものごとを複眼的に見る力を身につけましょう。外国語科目はこの時期にきちんと履修しておきましょう。教員アドバイザーに勉学等の相談に乗ってもら

うこともできますよ。

《2回生から履修可能な学部講義・演習科目（東アジア文化論関係）》

中国社会論ⅠA・B、同ⅡA・B、日本語学・日本文学ⅠA・B、同ⅡA・B、同ⅢA・B、日本語学
文献講読論Ⅰ、日本古典講読論Ⅰ、書論・書写演習A・B、など

〔3回生〕 主16（演習4を含む） 副12 自10

東アジア文化論のどのジャンルで卒論を書くか、だれを指導教員に選ぶかを念頭に置いて、
関係する学部科目（歴史文化社会論、国際文明学系を含む）を履修します。演習科目もしっかり履修し、文献の読解力を身につけましょう。

〈日本語学・日本文学関係演習科目〉

日本語学・日本文学演習ⅠA・B、同ⅡA・B、同ⅢA・B、書論・書写演習A・B、基礎演習：日
本近代文学、など

〈中国語学・中国文学・中国史学関係演習科目〉

中国文化論演習ⅡA・B、中国社会論演習ⅠA・B、基礎演習：中国史の基礎資料、など

〔4回生〕 主8 卒業論文12

卒業論文執筆の指導教員を決め、卒論のテーマを決めます。テーマに関連した授業を中心に
履修します。将来どのような分野に進んでも、卒論執筆は心に残るできごとです。4年間の勉
学の成果を試す意味で、思う存分に書いてみましょう。

国際文明学系 歴史文化社会論（西欧文化論関係）履修モデル

副専攻を⑧比較文明論（学部便覧の副専攻一覧表を参照）とし、最低取得単位を満たすミニマム編成例。

1, 2回生における文化論の基礎固めと、4回生における卒論・院試・就活などの自主的活動の時間の確保に配慮したプラン。これは最小限の単位取得プランであるので、本関係と親和性の高い人間科学系創造行為論関係、文芸表象論関係科目など他学系・関係の授業も積極的に履修することが望ましい。

（重）は重複履修 科目の後の数字は単位数

卒業に必要な単位数 140

主：主専攻科目（学系から 48 内基礎ゼミ・基礎演習 4+、演習 4+、講義 24+）

卒：卒業論文（12）

副：副専攻科目（他学系副専攻科目表から 20）

入：学系入門科目（他 2 学系から 4）

外：外国語科目（12+12）

自：自由科目（全共含む 32） 自由科目は科目例省略



（1回生 前期） 主専攻 4（講義 2 基礎ゼミ・基礎演習 2） 12 コマ計 24 単位

主：国際文明学入門 A 2

基礎演習：近世西洋史学 2

東洋史基礎ゼミナール I 2

入：人間科学入門 2

外：英語リーディング・英語ライティング・リスニング A

・仏語 I A・仏語 I A 8

自：4 科目 8

Here we go!

（1回生 後期） 主専攻 4（講義 2 基礎ゼミ・基礎演習 2） 11 コマ計 22 単位

主：国際文明学入門 B 2

西欧文化論基礎ゼミナール B 2

東洋思想基礎ゼミナール 2

入：文化環境学入門 A 2

外：英語リーディング・英語ライティング・リスニング B

・仏語 I B・仏語 I B 8

自：3 科目 6

Keep going!

（2回生 前期） 主専攻 8（講義 8） 11 コマ計 22 単位

主：西欧近現代表象文化論 I A 2

西欧近現代表象文化論 III A 2

西欧古代・中世表象文化論 I A 2



欧米歴史社会論 I A	2
副：ポストコロニアル思想文化論 A	2
ポストコロニアル思想文化論演習 A	2
外：英語（E科目）・フランス語ⅡA・	4
自：3科目	6

（2回生 後期） 主専攻 8（講義 6 演習 2）	
主：西欧近現代表象文化論 ⅢB	2
西欧古代・中世表象文化論 I B	2
欧米歴史社会論 IB	2
西欧近現代表象文化論演習 ⅢB	2
副：東アジア文化交渉論 B	2
ポストコロニアル思想文化論演習 B	2
外：英語（E科目）・フランス語ⅡB	4
自：3科目	6

11 コマ計 22 単位



（3回生 前期） 主専攻 8（講義 6 演習 2）	
主：欧米歴史社会論ⅡA	2
西欧近現代表象文化論ⅡA	2
多文化社会論 I A	2
西欧近現代表象文化論演習 IVA	2
副：テキスト生成文化論 A	2
東アジア比較思想論 A	2
自：2科目	4

8 コマ計 16 単位

（3回生 後期） 主専攻 8（講義 6 演習 2）	
主：欧米歴史社会論 IIB	2
西欧古代・中世表象文化論ⅢB	2
文明構造論 I B	2
西欧近現代表象文化論演習 IVB	2
副：東アジア比較思想論 B	2
東アジア比較思想論演習 B	2
自：1科目	2

7 コマ計 14 単位



（4回生 前期） 主専攻 4（講義 4）	
主：西欧近現代表象文化論 IA (重)	2
西欧近現代表象文化論 ⅡA (重)	2

2 コマ計 4 単位

（4回生 後期） 主専攻 4（講義 4）	
主：西欧近現代表象文化論 IVB	2

2 コマ計 4 単位

西欧古代・中世表象文化論 III B (重)

2

卒業論文：

12

12 単位

Congrats!!!



計 140 単位

〈 多文化複合論 〉

小倉紀蔵

（１）１～２回生の時期

東アジア比較思想論（講義及び演習）を履修するとともに、西洋思想、中国思想、日本思想、朝鮮思想をはじめとして思想・哲学・文学・文明・文化に関連する多様な授業を履修する。また政治学、社会学、法学、経済学など諸学問の世界観を広く理解する。外国語を習得することも重要だが、高度な日本語能力を養うことも大切である。

（２）３～４回生の時期

東アジア比較思想論（講義及び演習）を履修するとともに、卒論執筆に向けて問題意識を尖鋭化させつつ、なおも多様な科目を履修する。特定ディシプリンのことしかわからない人間にならないように視野を広げる。

岡 真理

（１）１～２回生の時期

ポストコロニアル思想文化論（講義および演習、２回生から）を履修するとともに、アジア、アフリカ、ラテンアメリカおよび西洋の文学、思想、文化、社会に関心を持ち、関連する多様な授業を履修する。あわせて英語はもちろんのこと、アラビア語、スペイン語、中国語、朝鮮語やフランス語、イタリア語など、西洋と非西洋世界を知的に往還するための言語を学ぶ。

（２）３～４回生

ポストコロニアル思想文化論（講義および演習）を中心的に履修するとともに、３回生では、４回生での卒業研究につながる研究テーマを設定し、自分自身の問題関心を明確にし、それを深く掘り下げて考察するためのさまざまな授業を履修する。

〈 地域文明論 〉

赤松紀彦

（１）１～２回生の時期

東洋史Ⅰ・Ⅱ、東洋史基礎ゼミナール、中国文字文化論、中国書誌論、中国古典講読論など全学共通科目のほか、日本を含むアジアの文化に関連するさまざまな授業を履修する。

（２）３～４回生の時期

東アジア比較芸能論、同演習および学系内・他学系・文学部における関連科目を履修する。

太田 出

（１）１～２回生の時期

東洋史Ⅰ・Ⅱや東洋史基礎ゼミナールなど全学共通科目のほか、日本を含むアジア関連の学部科目、たとえば東アジア比較芸能論、地域空間論、東アジア比較思想論、文化人類学方法。ユーラシア文化複合論、ポストコロニアル思想文化論などを履修することが望ましい。語学としては英語、中国語はもちろん、必要に応じて韓国語、東南アジア諸語、ロシア語などを身につけて欲しい。

（２）３～４回生の時期

東アジア文化交渉論を履修すると同時に、卒業論文の執筆に向けて自分なりの問題関心から取り組む課題を設定し、自分の目で確かめ、自分の足でさがし、最終的には自分の言葉で適切に表現できるよう努力してもらいたい。

〈文明交流論〉

塩塚 秀一郎

「テキスト生成文化論A&B」、「テキスト生成分論演習A&B」、「文化環境入門A&B」のほかに、「ヒストリー・オブ・アイディアズA&B」（多賀先生担当）、「ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A&B」（多賀先生担当）、学系内・他学系・文学部〈フランス語学フランス文学専修〉〈二十世紀学専修〉〈西洋史学専修〉の関連科目から選択

文化環境学系 環境構成論分野（建築・都市）の履修について

環境構成論は、人間の生活環境である**都市**（集落を含む）と、それらを構成する**建築**（庭園・土木構造物・インフラ・緑地を含む）を扱う学問分野です。

この分野へのアプローチは、個々の構成要素から分析を進めるミクロな視点から、全体像を捉えるマクロな視点に至る、さまざまな段階があります。それぞれの視点において、形成史や構成原理、歴史的・文化的背景、政治的・経済的背景、技術、思想など、フィジカルな現象のみならず人間社会的な事象も視野に入れて、人間の生活環境を深く理解することを目指しています。

ここでは、**2つのコース**を例示します。

人間の生活環境を捉えるには、どちらのコースの内容も必要ですが、自分自身の興味がどちらに近いかを考えて、まずは1コースを選択してください。講義や演習を受けるなかで、両コースを組み合わせて、オリジナルのコースをつくることも可能です。履修回生はおおよそその目安であり、シラバスに断わりの無い限り、履修順序は問いません。他学部の授業を積極的に受講することもお勧めします。開講科目は年度によって変更があり、下記の科目が必ず開講されているとは限りません。時間割およびシラバスで確認してください。

1. 「都市・集落の歴史と社会」コース （マクロな視点）

都市あるいは集落という空間的まとまりが、いかに形成され、変遷し、現在に至っているのかを理解するとともに、現代的課題として、その保全と継承、開発のあり方を考えるコースです。

想定される職種

都市論や都市史、歴史遺産の研究者・技術者／都市開発や都市計画、まちづくりに関係する仕事（ディベロッパー・コンサル・シンクタンク・ゼネコン・信託銀行・NPO法人・行政ほか）／伝統的町並みや文化的景観、世界遺産など歴史的環境の保全にかかわる仕事（国際機関・行政・コンサルほか）

1 回生 事例・基礎学習

学部科目：文化環境学入門A／文化環境学入門B／国際文明学入門A

全学共通科目（主専攻科目となるもの）：

都市空間論／都市空間保全論／都市空間史論

都市空間ゼミナールⅠ・Ⅱ

地域地理学関係科目／人文地理学関係科目

全学共通科目（主専攻科目とならないもの）：

図学A・B／日本都市史／景観デザイン論／都市設計学／

その他、公共政策関係科目など

※自由科目は相談してください

2-3 回生：理論・研究史・演習

学部科目：環境構成論Ⅰ／環境構成論Ⅱ／環境構成論Ⅲ／環境構成論Ⅳ

（「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。）

環境構成論実習Ⅱ／環境構成論実習Ⅲ／環境構成論実習Ⅳ／環境構成

論演習Ⅱ／環境構成論演習Ⅲ／環境構成論演習Ⅲ（演習と実習は隔年

開講。）／学部特殊講義IVB

※地理学 文化人類学 公共政策学 社会学 歴史学 造園学など接続する分野
の授業を受講することをお勧めします。

※自由科目は相談してください。

4 回生：事例発見・理論・応用・卒論

卒業研究：研究テーマの設定 フィールドワークや文献調査など

※研究に必要な科目があれば履修。

2. 「建築・くらしの歴史と文化」コース (ミクロな視点)

建築がいかにかその形態を獲得したのか、また、それがどのように変遷したのかを、人間の営み、くらしとの関係に軸足を置きつつ、多面的に考えるコースです。

想定される職種

建築計画や建築史、建築遺産の研究者・技術者／建築・土木・デザインに関する仕事（ディベロッパー・コンサル・住宅メーカー・不動産業者・ゼネコン・信託銀行・デザイン事務所ほか）

1 回生：事例・基礎学習

学部科目：文化環境学入門A／文化環境学入門B

全学共通科目（主専攻科目となるもの）

都市空間論／都市空間保全論

都市空間論基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ

全学共通科目（主専攻科目とならないもの）

図学A・B／住居計画学／日本建築史／世界建築史／芸術学Ⅱ

近代芸術論Bなど

※自由科目は相談してください。

2 - 3 回生：理論・研究史・演習

学部科目：環境構成論Ⅰ／環境構成論Ⅱ／環境構成論Ⅲ／環境構成論Ⅳ

（「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。）

環境構成論実習Ⅱ／環境構成論実習Ⅲ／環境構成論実習Ⅳ／環境構成

論演習Ⅱ／環境構成論演習Ⅲ／環境構成論演習Ⅲ（演習と実習は隔年

開講。）／学部特殊講義ⅣB

※美学 歴史学 建築学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。

※自由科目は相談してください。

4 回生：事例発見・理論・応用・卒論

卒業研究：研究テーマの設定 フィールドワークや文献調査など

※研究に必要な科目があれば履修。

都市・建築へのアプローチは無限にあります。

そしてその魅力も無限です。

あなたの視点で都市・建築を読み解いてください。

文化環境学系・文化人類学分野の履修推奨科目

(2017 年度入学 1 回生向け)

文化人類学分野で卒業論文を書こうとする学生は、以下の科目を履修することを推奨します。***は必修です**。文化人類学の方法論の根幹はフィールドワークなので、科目名に「調査」が含まれている授業はとくに重要です。教員は以下の 3 名です。

かざま かずひろ 風間 計博 (教授) いわたに あやこ 岩谷 彩子 (准教授) かじまる がく 梶丸 岳 (助教)

凡例→ (①, ②... 科目通し番号) 科目名 (担当教員名) / [xxx] : 他部局教員所属先
・推奨する受講学年はあくまでも参考程度にして、自らの関心に従って判断してください。

I . 全学共通科目

1. [1 ～ 2 回生推奨]

【講義科目】

- ① 文化人類学Ⅰ (風間、岩谷) : 2 コマ個別開講
- ② 文化人類学Ⅱ (岩谷)
- ③ 生態人類学Ⅰ [大学院アジア・アフリカ地域研究研究科] : 2 コマ個別開講
- ④ 生態人類学Ⅱ (風間)

【演習科目 (基礎)】

- *⑤ 文化人類学調査法 (風間)
- *⑥ 社会人類学調査法 (岩谷)

2. [2 ～ 3 回生推奨]

【講義科目】

- ⑦ 文化人類学各論Ⅰ (風間)
- ⑧ 文化人類学各論Ⅱ (風間、岩谷) : 2 コマ個別開講
- ⑨ 宗教人類学 (岩谷)

【演習科目】

- *⑩ 文化人類学調査演習 (風間)
- *⑪ 社会人類学調査演習 (岩谷)

・以下 2 つは、地域研究の演習科目ですが、人類学専門の教員が開講しています。

- ⑫ アフリカ地域研究ゼミナール [大学院アジア・アフリカ地域研究研究科]
- ⑬ アジア地域研究ゼミナール [大学院アジア・アフリカ地域研究研究科]

Ⅱ. 学部専門科目

1. 以下の科目を履修することを強く推奨します。

⑭ 文化行為論A／B〔人文研〕

⑮ 生態人類学演習〔大学院アジア・アフリカ地域研究研究科〕

☆風間・岩谷の指導のもとで卒論を書く学生は、それぞれ以下が**必修**となります。

*⑯ 環境人類学演習A／B（風間）：重複履修可

*⑰ 社会人類学演習A／B（岩谷）：重複履修可

2. 4回生時に、卒論指導教員の開講する以下の科目を**必ず履修**してください。

*⑱ 文化人類学方法A／B（風間）

*⑲ 社会人類学方法A／B（岩谷）

以上です

文化環境学系 地域空間論分野 履修モデル

地域空間論分野は、**人文地理学**を専門領域の基盤に据えて、多様な地域の様態と空間の構造を学際的に研究する教員と学生・大学院生が集まる研究室です。**小方登**（地理情報・都市地理学）、**小島泰雄**（農村地理学・中国研究）、**山村亜希**（歴史地理学）の三名の教員が協力して、学生一人ひとりが自ら選択したテーマに関する研究と卒業論文作成をサポートしています。

学生と教員が知的共有する**人文地理学**は、人間と自然の関係や地域の多様性を解明することをめざす専門領域ですので、履修にあたっては、地理学に関する履修（全学共通科目、総合人間学部科目、文学部科目）だけでなく、副専攻をはじめとする多様な専門領域の履修に挑戦し、さらには留学を含めた、将来にわたって自らの力を高めることを意識して、学部学生としての日々を有意義に使うことを期待します。なおこの研究室で学ぶにあたって、高校までの地理教育の知識は前提ではありません。

以下、各学年における履修の方向性について記しますが、1回生から全学共通科目の地理学関係科目（たとえば人文地理学各論や地域地理学各論）をたくさん受講することも、2回生から学部科目（たとえば後期に開かれる地域空間論演習Ⅱ・同Ⅲ）を積極的に受講することも、自らの学習計画に応じて設計してください。

【1回生】地域空間論／人文地理学とは、どのような専門領域であるか、そして指導をうけることになる教員はどのような人か、を知るために；

学部科目：【講義】文化環境学入門A

【ゼミ】基礎演習：地理情報、基礎演習：地域地理学、基礎演習：歴史地理学

全学共通科目：【講義】人文地理学、地域地理学、自然地理学

【演習】地理学基礎ゼミナールⅠ読図、地理学基礎ゼミナールⅡ作図、
地理学基礎ゼミナールⅢ地理情報

＊これらの授業は地理学の基礎的な科目です。

【2回生】地域空間論／人文地理学のより深い理解のために；

全学共通科目：【講義】人文地理学各論Ⅰ（都市）、人文地理学各論Ⅱ（村落）、人文地理学各論Ⅲ（歴史地理）、人文地理学各論Ⅳ（地域情報）、人文地理学各論Ⅴ（経済地理）、地域地理学各論Ⅰ（日本）、地域地理学各論Ⅱ（欧

米)、地域地理学各論Ⅲ (アジア・アフリカ)

*これらの授業は地理学の各論であり、1回生から履修を始めてもよい。

【3回生】自らの研究の方向性を考えるために；

学部科目：【講義】地域空間論ⅠA、地域空間論ⅠB、地域空間論ⅡA、
地域空間論ⅡB、地域空間論ⅢA、地域空間論ⅢB、
地域空間論Ⅳ、地域空間論Ⅴ、

【演習】地域空間論演習Ⅰ、地域空間論演習Ⅱ、地域空間論演習Ⅲ、

文学部科目：【講義】地理学特殊講義、地理学講義

*とくに地域空間論演習Ⅰ、地域空間論演習Ⅱ、地域空間論演習Ⅲは、
研究を進める方法を学ぶために、ぜひ履修してください。また指導教員
を選んだ後期からは、四回生・院生が研究報告を行うゼミナールを聴講
することになります。

【4回生】卒業論文を書くために；

卒業論文は自らテーマを決めて行う研究活動ですので、学生は指導教員と対話を重ね
て、考え、書いてゆくこととなります。また、卒業論文の途中経過について大学院演
習等で発表し、研究室の学生・院生・教員と議論を行います。

なお近年の卒論テーマは、「中世鹿児島 of 景観変遷」「地域おこし協力隊」「鉄道駅と
都市構造」「メコンデルタの塩水遡上」「和束の村おこし」「大阪の人口移動」「地名の
認知」「六甲アイランド」「古着店の集積」「京都の賃貸料」「ゲストハウス」「シンガ
ポール」「修学旅行」「京の口」「交響楽団の場所」「富山とフライブルク」「日本のフ
ィリピン人」「農産物直売所」「近畿の砂岩採石」「ツーリングと道の駅」「京都の地下
水」と多様です。

*とくに4回生でとるべき授業はありませんが、全学共通科目の基
礎的な科目や総合人間学部の専門科目など、自らの教養を深める
ための履修を行うことを期待します。

以 上

自然科学系 4分野履修モデル

「物理科学」を主な学習テーマとする場合、履修することが望ましい科目

◆ 各学年において、以下に挙げる科目を履修することを勧めます。

第1学年

<全学共通科目>

物理学基礎論 A, B

熱力学

力学統論

物理学実験

線形代数学（講義・演義） A, B

微分積分学（講義・演義） A, B

<学部入門科目>

自然科学入門、分野を横断する自然科学

<学部科目>

体験から学ぶ超伝導

総合フィールド演習

第2学年

<全学共通科目>

振動・波動論

電磁気学統論

解析力学)

統計物理学

特殊相対論

<学部科目>

量子力学 I

物理学演習 A（力学）

体験から学ぶ超伝導

<全学共通科目：数学>

線形代数学統論

微分積分学統論 A, B

確率論基礎

第3学年

<学部科目>

課題演習・物理科学

量子力学 II

統計力学
物性基礎論Ⅰ、Ⅱ
物性特論Ⅰ、Ⅱ
物理学演習B（電磁気学）
物理数学演習
体験から学ぶ超伝導

第4学年

<学部科目>

物性基礎論Ⅰ、Ⅱ
物性特論Ⅰ、Ⅱ
自然科学特別ゼミナールA, B

◆ 学部のとくに物理学の基礎科目である「力学」、「電磁気学」、「熱力学」、「量子力学」、「統計力学」、「物理数学」を習得するとともに、物性物理学などの専門科目に興味に応じて学習してください。物理学は実験に基づいた学問です。全学共通科目の「物理学実験」や学部科目の「課題演習・物理科学」で提供される実験の科目にて、実験を経験することを強く勧めます。また、物理学を学ぶ上で、プログラミングや Mathematica などの数式処理ソフトの知識は非常に有用です。こうした学習上のアドバイスやおすすめの教科書、参考書などについては、気軽に物理教員に相談してください。

「化学・物質科学」を主な学習テーマとする場合、履修することが望ましい科目

第1学年

<全学共通科目>

基礎物理化学（量子論）、（熱力学）
基礎有機化学Ⅰ、Ⅱ
基礎化学実験

<学部科目>

フロンティア化学
自然科学入門
分野を横断する自然科学
地球と生命の起源と進化
総合フィールド演習

<化学以外の全学共通科目>

微分積分学（講義・演義）A, B *1
線形代数学（講義・演義）A, B *1
生化学入門
物理学基礎論A, B
物理学実験 など

第2学年

<全学共通科目>

有機化学演習A, B

無機化学入門A, B

探究型化学課題演習Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ

<学部科目>

分子構造機能論演習A, B (第3学年でも履修可)

<化学以外の全学共通科目>

量子物理学 など

第3学年

<学部科目> *2

物質分析論

物質機能論

物質構造論

物質反応論

物質変換論

分子構造論

分子反応論

物質構造機能論演習A, B, C, D, E *3

課題演習: 物質の構造と機能

課題演習: 分子の構造と機能

第4学年

<学部科目>

自然科学特別ゼミナールA, B

*1 微分積分学と線形代数学のセットに代えて自由科目として数学の基礎を学ぶ場合には、理系向けの「数学基礎ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB [理系]」を受講することを推奨します。

*2 科目によっては第2学年でも履修が可能であるので、担当教員に相談すること。

*3 物質構造機能論演習A, B, C, D, Eは、開講しない年度もあるので、注意すること。

「生物」を主な学習テーマとする場合、履修することが望ましい科目

第1学年と第2学年

(全学共通科目)

動物自然史Ⅰ/Ⅱ

植物自然史Ⅰ/Ⅱ

生物自然史Ⅰ/Ⅱ

真菌自然史Ⅰ/Ⅱ

行動生態学入門

藻類学概論

「生命の進化」概論

生化学入門

細胞と分子の基礎生物学

生物・生命科学入門

先端生命科学を支える技術Ⅰ/Ⅱ

生物学実習Ⅰ～Ⅲ

(学部入門科目)

自然科学入門

分野を横断する自然科学

(学部科目)

地球と生命の起源と進化

基礎演習：日本列島弧の自然と生物多様性

基礎演習：植物野外実習（高山植物の観察）

基礎演習：環境微生物概論

基礎演習：分子細胞生物学入門（英語講義）

総合フィールド演習

第2～3学年

(学部科目)

生物適応変異論Ⅰ/Ⅱ

生物多様性・生態学

生体分子機能論Ⅰ/Ⅱ

細胞生物学A/B

分子細胞生物学演習

自然史演習

第3学年

(学部科目)

分子細胞生物学特論

自然史特論

課題演習：生物学

総合フィールド演習（1・2学年時に履修しなかった学生）

第4学年

(学部科目)

自然科学特別ゼミナールA, B

＊生物学の実験・研究には、化学・物理・地学・数学（統計学）の基礎知識も役立ちますので、各自の興味合わせて幅広く履修することを推奨します。

「地球科学」を主な学習テーマとする場合に履修することが望ましい科目

◆ 学部が提供する地球科学系の全学共通教育科目、学部科目には以下のものがあり、履修することを勧めます。

第1学年／第2学年

〔全学共通教育科目〕

基礎地球科学A・B

地球科学実験

太陽系と地球の物質〔2回生以上対象〕

探究型地球科学課題演習〔2回生以上対象〕

計算地球物理学入門・計算地球物理学基礎演習〔2回生以上対象〕

フィールド地球科学〔2回生以上対象〕

〔学部科目〕

自然科学入門（前期）・分野を横断する自然科学（後期）〔1回生向け〕

地球と生命の起源と進化・総合フィールド実習〔1回生から履修可〕

地球科学演習A・B・C〔2回生以上対象〕

第3学年

課題演習：地球科学

第4学年

自然科学特別ゼミナールA・B

＊全学共通教育科目では、他学部／研究所からも地球科学系の科目が提供されています。地球科学という幅広い学問分野を展望する意味で、各自の興味に合わせて履修してください。

◆ 数学、物理学、化学、生物学の基礎的な素養は、地球科学を学ぶ際に必要となり、また役立ちます。下記のような基礎的科目を各自の興味や必要性に応じて履修することを推奨します。

線形代数学（講義・演義）A・B、微分積分学（講義・演義）A・B、または、数学基礎Ⅰ・Ⅱ（理系用）

物理学基礎論A・B

基礎物理化学（量子論・熱力学）、基礎有機化学Ⅰ・Ⅱ

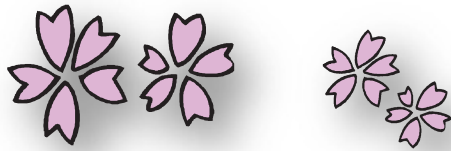
生物・生命科学入門

◆ 各自の興味に合わせて、理学部など他学部で開講されている地球科学系のより専門領域の講義や実習を積極的に履修することを勧めます。

※ 地球科学は他の学問分野と関わり合いをもつ非常に幅広い分野で、最初からすべてを勉強すること
は大変です。興味のある分野を勉強しながら、必要に応じて、他分野を勉強していくことになります。

「必要となったら、何でも、いつの時点でも、どこにいても、勉強する」ことが大切です。

学習テーマやそれに合わせた科目履修に関しては、地球科学系教員に気軽に相談してください。



卒業生からの履修アドバイス

ここからのページはこの春に羽ばたいた諸先輩たちが新入生の君達に残してくれた、貴重なアドバイスです。どうぞ参考にしてより充実した、また、後悔しない学生生活を送って下さい。

平成28年度卒 吾妻 真典

主専攻：人間科学系

副専攻：複合領域（現代文明と科学）

はじめに

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

履修アドバイスに先立って、総合人間学部の持つ特徴を整理してみると、専攻領域の多さが挙げられます。必修科目と呼べるものがほとんどと言っていいほどなく、何を学ぶかは自身の選択にゆだねられています。卒業後の進路についても、他の理系学部のようにほとんどの人が大学院へ進学するわけではなく、またその一方で他の文系学部のように大多数が就職するとも言い難いです。

このように専攻及び進路について複雑多岐を極めるこの学部において、皆に有益なアドバイスというのは難しいものであります。ただその中でも、私なりに大事だと思われる部分を記述しました。少しでも参考になる部分があれば幸いです。

〈一回生〉

語学の授業以外完全に自由で何を履修したらよいのか戸惑うことと思います。一回生では、語学、学系入門科目の単位を押さえれば問題ないです。あとは、全学共通科目を自身の興味に従って履修すればよいでしょう。私は現在、教育学やジェンダー論を扱う研究室

に所属していますが、入学当初からそれに興味があったわけではなく、一回生前期に受けたジェンダー論の講義がきっかけとなりました。大学での学問には、高校生のときには知らなかった学問が多くあります。運命の出会いが一回生での授業に転がっているかもしれません。

総人は専攻の幅が広く、また専攻を大学入学後に決定できるところにメリットがあると私は思います。そのメリットを最大限に生かす意味でも、少しでも興味を持った科目をどんどん履修してほしいです。

〈二回生〉

二回生への進級時に主専攻学系の分属が決定します。この時点で自身のやりたいことが定まっているに越したことはないですが、私はこの時点では決めきれずにいました。この学部を目指した理由が脳科学への興味でしたからとりあえず認知情報学系に所属しましたが、二回生の一年は自身の専門を見定める期間となりました。認知情報学系の学部科目を履修し、またどのような研究を行うことが可能であるのか教授を訪問したりもしました。一方で、ジェンダー論への興味から「ジェンダー論基礎ゼミナール」などの人間科学系の授業も履修しました。二回生ぐらいからゼミナール形式の授業を履修し、発表やディスカッションに慣れておくといいかもしれません。

また、二回生から教職免許の取得に本格的に動き出しました。はじめは途中で挫折する可能性を懸念して、教育学部の授業などを抑えめに履修していたのですが、三回生、四回生からは研究が忙しくなり、教職科目の授業に費やせるコマ数が少なくなるので、少し無理をしても二回生のうちに教職の単位を揃えておけばよかったと反省しています。

〈三回生〉

それぞれの分野で何ができるか、自分が本当に興味のある分野は何か考えた末、三回生への進級時に人間科学系に転学系しました。学系や研究室にもよりますが、私の所属したゼミは、三回生と四回生、さらには大学院生から構成され、そこでは四回生の卒業論文の指導も行われるなど一気に専門性が高まりました。また、専門性を高めるに当たって、教育学部、文学部の授業の聴講もしました。他学部の聴講も卒業単位として認められるのも総人のメリットの一つです。

〈四回生〉

単位はほぼ揃っていたので、卒論のゼミと教職科目の授業のみでした。夏休み前にテーマを決めましたが、夏休みは院試勉強に追われたため、卒業論文に本格的に取り組んだのは秋からになりました。卒業論文が書き終わったのはギリギリで、もっと早くからテーマを決定し研究を進めるべきだったと後悔しています。

また、教職科目について、卒業論文の傍ら授業に出てレポートや試験をこなすのは非常

にハードでした。三回生または四回生の前期までに教職科目の単位は揃えたいところです。

おわりに

総合人間学部の良さは、選択肢の多さ、可能性の広さだと考えています。実際に私は、入学時に興味のあった脳科学・認知心理学から、言語科学、ジェンダー論、教育学とその興味は変遷をたどって来ました。実際に学んでみないと、ある学問の良さ悪さは見えてこないことが多いです。「自分の思っていたものと違う！」となったときにその気持ちに従うことができること、分野にとらわれず自身の問いを追い続けていけることが、この学部の最大のメリットです。そのメリットを享受する意味でも、一回生の頃は様々な学問分野に触れ、そのうえで自分が真に好きだと言えるものを見つけたいと思います。そうすることで、行き詰ったとき、自分に向いているのか不安になったときに、「多くの学問の中でこれを選んだ」という事実が自身を支えてくれるはずです。

平成28年度卒 長谷川 菜月

主専攻：人間科学系

副専攻：国際文明学系（現代文明論）

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

京都大学の学生としての生活がスタートした今、期待や不安でいっぱいだと思います。

私も入学当初は同じような気持ちでした。しかし、4年間を総人で過ごし、その期間を今振り返ると後悔が多いように思っています。そんな私からは、この後悔を参考に4年間を通して意識すべきことのアドバイスをお届けしようと思います。

①就職については最後の一年だけでなく、4年間考え続けること

サラリーマンになるのか、事業を立ち上げて社長になるのか、農業で生活をしていくのか…。「就活」は、スーツ姿で説明会に行って、ESを書き、面接に行くだけが方法ではありません（上に挙げた例は私の偏見も少し入っていますが…）。身近な人生の先輩（家族でも、バイト先の先輩や社員でも、ご近所さんでも）との関わりから、あるいは授業の中で読んだ文献から、たくさん参考になるものが出てくると思います。どうぞ4年間、ゆっくりでいいので考え続けてください。それによって就活のしかたも大きく変わってくるでしょう。

②とりたい授業をとろう

最初は「120単位」という縛りがかなり大きな数字のように見えるかもしれませんが。しかし、楽勝単位だからといって自分の興味に関係ない授業ばかりとっていると、実はあっと

いう間に終わってしまいます。さらにどの授業が「楽勝」か、というのも毎年変わるものなので、あまり頼らない方がいいのではないかと思います。それよりも、自分の興味関心を優先して授業をとりましょう。自分が興味のある内容であったり、好きな教授が教えている授業というのはなかなか休みたくはないものです。そうやって授業をとっているうちに、卒業研究のテーマや自分の問題関心も明確になっていくでしょう。

③週3コマは絶対に出るという授業をつくろう

最後はかなりレベルの低いアドバイスになってしまいました（笑）。実は私は4回生の夏まで大阪から大学に通っていて、片道2時間かけて授業に出ていました。それを理由に「自分は自宅生だから仕方がない」と甘えた考えをもち、なかなか授業に出なかったのは事実です（さすがに3回生からは単位も心配だったため授業に出るようになりましたが…）。後から考えると、1～2回生の間の勉強が3～4回生での専門の授業や卒業研究に大きく影響したと思います。当たり前のことですが、まず基礎が身についていないとその先に進めないのです。1～2回生であまり授業に出なかったことで3～4回生でどのように予習や復習をしたらいいのかわからなくなってしまい、自分の自信を大きく失うことになりました。ここまでの人はなかなか居ないとは思いますが、普段真面目に授業に出ている人でも、もし授業に出るのが面倒になったときには、週3コマで良いので出る授業を自分の中で決めてください。そうすれば授業に全く出ずに自分の自信を失くすといったことは避けられるでしょう。これが後々の大学生活に効いてくると思います。

総合人間学部は本当に自由です。選択肢が多すぎて迷うことも多いと思います。そんなときはどうか自分の直感や興味に従って、身近なところから進めていってください。

やらないよりはやってみた方が、前に進めると思います。

ぜひ行動力を持って、総人での学びを楽しんでください。

平成28年度卒 長澤 勇貴

主専攻：認知情報学系

副専攻：複合領域（文化総合研究）

まず初めに

皆様、ご入学おめでとうございます。「Faculty of Integrated Human Studies」。こんな怪しい名前の学部を選んだ、いい意味で普通でない感性を持った皆さんは、各々自分なりの濃密な大学生活を送ることと思います。そんな皆さんには、皆さんと大して年の変わらない坊主頭のアドバイスなど、役に立たないと思います。一応、私が各回生で、どんな

授業を取ったかを中心に、履修に関するアドバイスは書きましたが、「こんな感じで履修した人がいたのかー」程度に、暇なときに読んでいただければ筆者望外の喜びです。（回生の前に書いてある季節や、最後の方の意味不明な表現は気にしないでください。）

全体的な話

他の学部では、ある程度、あるいはほとんど必修科目が定められており、履修科目の自由度が少ない反面、カリキュラムに沿って単位を取っていけば、最低限の専門性を身に着けることができます。一方、総合人間学部は、必修科目がほとんどなく、要件さえみれば自由に授業を履修することができます。そのため、うまく利用すれば自分が学びたいことを好きなだけ学べる環境であるのに対し、何も考えずに履修をすると、何も得られないことになりかねません。そうならないためにも、新入生の皆さんには、漠然とでいいので、なぜこの学部に来たか、4年間で何をしたいのか、将来どんな自分になりたいのかを、今のうちに考え、その考えに沿うような形で、履修をしていくとよいかもしれません（例：留学をしたいので、英語講義を履修したり、早めに卒業単位をそろえる / 文系で入学したけど、化学をやりたいから、理系科目を早めに多く履修する / 教員免許を取りたいので、1回生から必要な科目を履修するなど）。ちなみに私はあまりちゃんと考えなかったのを後悔しています!(^_^)!

春（1回生）

右も左もわからず、とりあえず面白そうな一般教養科目や、語学、入門科目を受講していました。ある程度多くの単位を取ろうと、いわゆる「楽単」にも手を出しました。今としてみると、はっきり言って、この時期に単位を増やそうと「楽単」に手を出したことにあまり意味がありませんでした。なぜなら、回生が上がってから履修できる学部の科目も、主専攻や副専攻の単位が余れば自由科目の単位に回すことができるため、一回生の時に履修した自由科目が余剰単位になってしまうからです。余剰単位になるなら、学年が上がった時に、主専攻とは関係ないけど興味がある科目を履修した方が有意義だと思います。また、一回生のころから、基礎ゼミ（現在のILASセミナー）を受けておけばよかったなと思います。少人数の授業で、資料作成や、発表といった上回生になってから必要になるスキルが得られ、かつその道の一線で活躍する教員と直に対話することができるからです。

夏（2回生）

主専攻を認知情報学系にしようと思い、主専攻の単位になる一般教養科目も履修しつつ、基礎ゼミや学部専門科目を履修しましたが、まだ決めかねていました。そのため、学系問わず興味の赴くままに、学部科目の座学を履修していました。

秋（3 回生）

主専攻を認知情報学系に、また研究室も現在所属する研究室に決め、学部専門のゼミや演習、他学部の専門科目を履修しました。研究室や指導教員に関しては「合う / 合わない」があるので、必ず早めにアポを取って相談しましょう。また、総人は他学部のように、自分の専門に近い分野の教員が何人もいるわけではありません。したがって、自分の専攻する分野を体系的に学ぶために、他学部が開講している関連科目を履修することが必要になることもあります。アドバイザー教員や、先輩などに話を聞き、自分の専攻する分野で必要になる知識を確認しておくとういと思います。自分は認知神経科学という、実験心理学と神経科学の間に位置する分野を専攻していたので、教育学部や文学部、理学部の講義を履修しました。また先輩や教員から、プログラミングや統計学の基礎知識が不可欠と言われたので、関連する授業を履修しました（結局、プログラミングの授業は途中でやめてしまったため、4 回生の前期に独学する羽目になりました）。

また、人科や文環や国文の専門科目も履修していたので、副専攻を複合領域に決めました。複合領域は条件がややこしく、また副専攻としての体系性がないので、あまりお勧めしません。

冬（4 回生）

入学したての皆さんにはまだまだ先の話です。読み飛ばしていただいてもかまいません。就活や院試と並行しながら、1 年かけて卒論を作成していきます。4 回生までに単位が揃っていないと就活や院試、卒論をやりながら、単位を揃えなければいけなくなるので、卒業に必要な単位は可能な限り 3 回生までに取り終えましょう。4 回生の後期まで単位が残ると、卒論の提出に追われながら、授業のレポートや、試験勉強をすることになり悲惨です。卒論に取り掛かる時期は研究室や分野ごとに違うと思うので、教員や先輩に聞いてみてください。最後に、4 回生の 12 月から 1 月の会話の例を示しておきます。

「卒論やばくない？」

「やばい」

「卒論はよ終われ」

「ワードくそ重いんだけど(# °Д°)」

「それなー!(^ ^)！」

最後に

「光陰矢の如し」

卒業を間近に控えた現在の心境です。ここまで 4 年が早いものだと思いますでした。偉そうにアドバイスを書いてきましたが、4 年間をもっとうまく使えばという後悔の気持ち大きいです。皆さんが私と同じ後悔をしないことを切に願います。4 年間という時間を最大限に活かせば、「砂漠に雪を降らせる」ことだってできるかもしれません。できるだけ多

くの人が「砂漠に雪を降らせること」を期待しています。

表 1. 履修表 (私の例)

	主専攻	副	一般	履修科目	
一回	8	14	31 (入門 4)	一般教養、入門科目、語学など	気の向くままに授業を履修していました もう少しゼミ形式を取ればよかったと思います
二回	14	8	16	専門の座学、基礎ゼミ、語学中級など	
三回	26	6	3	主専攻の演習、他学部の授業、統計 認知機能論ゼミ、記憶神経科学ゼミなど	専門分野に近い他学部の授業も多く受け ました。卒業に必要な単位を揃えました
四回	10	0	2	指導教官のゼミ、演習、卒論 (通年) 例) 記憶神経科学ゼミ、記憶機能論演習	2 回生の時、集中講義でお世話に なった教員の ILAS セミナーを 受講しました

(単位数)

平成 28 年度卒業 富木 香奈

主専攻：国際文明学系

副専攻：文化環境学系 (比較文明論)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、長い受験勉強お疲れさまでした。きっと、皆さんそれぞれ弛まぬ努力の末に勝ち取った合格だと思います。私自身、実は 4 年前は他学部と迷いに迷った末に決めた進路でした。ですが今になってこの 4 年間で振り返ると、総合人間学部を選んでよかったと素直に思います。総人は、文系理系関係なく色々なことに興味を持った人が集まります。それは学問においてのみならず、4 年間の過ごし方も人によって本当に様々で、個性豊かな面白い学部だと思います。でも、だからこそ周囲に流されているだけでは方向性を見失うことになります。周囲の人が自分にとってのロールモデルになるとは限らないからです。なので皆さんにも是非、自分なりによく考えて、充実した 4 年間にして頂ければと思います。そんな総人で 4 年間で過ごした先輩として、私のこの文章が少しでも参考になれば幸いです。

【一回生】

まず驚いたことは、履修できる科目の多さです。選択肢が多すぎて戸惑いながらもなんとなく興味のある授業をなんとなく入れて、なんとなく単位がたまった、という感じでしたが、おかげで卒業単位の半分近くをこの一年でとりました。一方で 2 つのサークルに入会

し、バイトも初め、ただただ手探りで色々な事をスタートした一年でした。一回生のうちは、学問もそれ以外も多くの選択肢があり、やる気さえあれば何にでも挑戦できるので、やりたいことを見つけて頑張ってください。

【二回生】

二回生はサークル活動中心の一年でした。リーダーや責任者を任される立場になり、友達との仲も深まり、毎日が楽しくて、平日も休日も毎日自宅から一時間半かけて京都に通う忙しい日々を送りました。相対的に学業の優先順位は下がりましたが、少しずつ興味のある分野を見つけて、ゼミ形式の授業などで深く学ぶことが面白いと感じるようになりました。ただ、私の実感として、副専攻の単位は不足しがちなので、早めに決めて揃えることをお勧めします。

【三回生】

周りの友達で長期間の海外留学に行く人も増え、皆がそれぞれの方向に動き始めている実感がありました。私自身は、三回生の後半ごろから本格的に就職活動を始めインターンなどに参加したりしましたが、一二回生のうちにほとんど単位を揃えていたので、学業との両立に苦勞することもなく、この時になって初めて、今までコツコツ頑張っていて良かったなと思いました。また、就職活動では、総人の先輩やサークルの先輩に相談したりアドバイスをもらったりしました。色々なコミュニティに所属して人間関係を広げることは大切だと思います。

【四回生】

就活が終わってからは、卒論執筆に専念しました。私は入学当初から大学では歴史を勉強したいという思いを持っており、四回生になってもその気持ちは変わらず、平安時代の文化に関するテーマで卒論を書くことに決めました。初めての本格的な論文執筆で、準備段階から苦勞や不安もありましたが、私の場合は、所属する研究室の教授をはじめ、大学院生の先輩方が熱心にサポートして下さり相談に乗って下さったおかげもあり、最後は自信を持って発表することが出来ました。卒論作成の進め方は所属する研究室によって様々なようですが、やはり、自分にとって興味があり、研究していて素直に面白いと思える分野に取り組むことが一番だと思います。

【最後に】

私は、この文章を書くにあたり、4年間を振り返りましたが、間違いなくこれまでの人生で一番自由で楽しくて一生懸命な4年間だったと思います。だからこそ、驚くほどあっという間に終わってしまったのでしょう。皆さんも、大学でやりたいこと、挑戦したいことがたくさんあると思います。ですが、全ての事に全ての力を注ぐことはできませんので、優

先順位をつけてなるべく計画的に時間を使い、後悔することの無い大学生活を送ってもらえればと思います。

平成28年度卒業 湊本 泰行

主専攻：文化環境学系

副専攻：人間科学系（思想文化論）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。まさにこれを書いている本日、私は卒業できることが決まりました。入れ替わりになってしまっただけで残念です。さて、ここでは私の学生生活を紹介して、コメントを残したいと思います。ひとり個人のエピソードですが、何かしら感じ取ってもらえれば幸いです。

新入生時

みなさんは5月になるくらいまでは「1回生」というより「新入生」と呼ばれることが多いでしょう。いわゆる新歓でちやほやされる時期です。私は某体育会の部活の新歓に入り浸り、毎日のように部活の先輩方と顔を合わせていました。もう少し色々な、と言うよりも自分が興味ないと決めつけていたサークル等にも行っておけばよかったなと思っています。ただ、毎日色々な人に出会い、楽しく過ごし、ありがたいことに4月はほとんど食費を使わずに終わったと記憶しています。

何かしらに所属する人は多いと思いますが、「勢い」と「一度冷静になってみる」という両方をもって選択をすることをお勧めします。私の場合は「勢い」の部分が少し強かったかなと思っています。ここでの選択が大学生活の多くを決めると言ってもいいと思います。

1回生時

履修に関しては、時間割に最初から組み込まれていた物理や数学の授業も入れていたのですが、数週間授業に出てから興味がないことに気づき、切りました。時間に余裕のある1回生のうちに多くの単位を揃えたかったので、履修登録をする際に別の授業を入れておけばよかったなと思っています。また、入門科目については、私は希望の指導教員を決めて入学したために主専攻が決まっており、迷わずに他の専攻のものを選択できました。

とは言うものの、実際は新歓でお世話になった某体育会の部活に入り、生活は部活中心になっていきました。言葉は悪いですが、部活の練習の合間に授業に出るといった生活です。卒業まで部活中心の学生生活になる予定でした。

2 回生、3 回生時

2 回生春に身体を壊し、部活を抜けました。春学期は授業にもほとんど出ず身体を休めました。まとまった時間ができたので自分を見つめなおす非常にいい機会になりました。身体を壊すまでは、部活を続ける学生生活がたったひとつの正解だと思い込んでいましたが、自分と対話し、新たな正解を模索する時間となりました。

体調も回復してきた夏頃からは、アルバイトも始め、元々好きであり、今では研究対象でもある韓国へも頻繁に渡航するようになりました。韓国に没入し始めた時期です。

私が取っていた専門の授業は、学生数が少なく、院生と合同の授業もたくさんありました。そのため教授との距離も近く、他研究室の先輩とも仲良くなるが多かったです。学外での学会や研究会にも顔を出させていただくようになりました。ただし、総人の同期たちは専攻がバラバラのため授業で会うことは少なく、クラス単位でのまとまりのあった 1 回生のほとんどを部活で過ごしていた私は同期と会うこともほとんどありませんでした。それは寂しいことでもありましたし、総人の情報があまり入ってこないという不便さもありました。

また学外では、学生団体とのつながりも増え、全国の学生たちとコミュニケーションをとる機会も増えました。

2 回生から 3 回生にかけては様々な人に出会い、様々な世界を見れたと思います。

4 回生から韓国留学生活にかけて

4 回生の秋学期から韓国へ 1 年間留学しました。留学の準備には想像以上の時間を要し、3 回生後半から準備をはじめて、4 回生の秋学期から無事行けることになりました。が、同時に留年も決まりました。大学を 5 年通ったことに後悔はないですが、準備に時間がかかることを事前に知っていれば、4 年間で卒業していたかもしれません。

韓国での生活は人生の中で一番楽しい時間でした。大学で勉強すること、現地の学生と交流することはもちろん、日本人駐在員や日本語教師、在韓京都大学卒業生など様々な人との関わり合いや、日韓学生によるフォーラムの運営や国立の歴史博物館での日本語での展示解説といった経験もできました。目に入ってくるもの、感じるものすべてが刺激的で、休みなく動き回った 1 年でした。

卒業学期

韓国から帰国後、腰を据えて 9 月の大学院入試に向けて勉強をしました。大学院入試が無事終わると、本格的に卒業論文執筆に入りました。初めての論文は、自分の無能さ無力さを痛感させられましたが、指導教授、研究室の先輩方のご助言もあり、3、4 か月かけてなんとか完成させることができました。

また、卒業要件まで単位が残っていたのは精神的に苦痛でした。単位が認められないかもしれない、論文を書いても卒業できないかもしれないといった不安は精神衛生上よくな

く、せめて 4 回生の春学期までにしっかりと確認し、揃えておくことをお勧めします。

おわりに

モラトリウムとも言われる大学生活ですが、せっかく享受したその時間をどう使うかは本人次第です。部活に捧げる、アルバイトに精を出す、起業する、学生団体に活動する、勉強に集中するといった大きく過ごし方に関わるものから、世界中を旅する、彼氏彼女をつくる、とりあえず遊びまわるといったものまで様々な未来を描き、目標を設定できるでしょう。私はもう一度学生生活できるなら？と聞かれると本当に迷います。勉強に集中した学生生活もしたいですし、失敗した部活漬けの生活や、テニスサークルでの華やかな生活も送ってみたいです。結局あまり変わらない生活になるかなあと思ったりもしますが。

私は選択を誤ったなあと思うことはこの大学生活の中で何度かありました。しかし、今になると、この 5 年間はひとつの正解かなと思えます。正解はひとつではないですし、誤った選択も正解にできると思います。山あり谷ありの中で、自分のしてきたことを、いかに自信を持って正解と言えるようにするかを考えて生きていくことがポイントなのではないかなあと思います。

いつのまにか僣越かつ、安っぽい自己啓発本のようになってしまいましたが、5 年ほど早く生まれたひとりの人間の戯言が、皆様にとってお役に立てれば幸いです。素敵な学生生活をお過ごしください！

平成 28 年度卒業 今城 葉月

主専攻：自然科学系

副専攻：人間科学系（人間形成論）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活への期待に胸を膨らませていることでしょう。入試も終わってしばらく勉強のことなんて考えたくないという人もいるかもしれません。でも 4 年後に後悔しないためにも私の大学生活を振り返りながら、少しアドバイスを送りたいと思います。

〇1 回生

自分も周りもやる気があるこの時期にしっかりと単位を取っておくことが重要だと思います。京都の冬は寒いので 1 回生の後期でさえも人は減ってきます。人がいなくなってくると自分だけ頑張るのが馬鹿らしくなってしまうので早め早めの単位取得をおすすめします。とは言うものの、私は 1 回生の前期でクラス科目は必修に近いものだと思っていて、あまり興味がない分野をたくさんとっていました。そのせいもあってか勉強は大変だった

のに単位をいくつか落としてしまい、20 単位ほどしか取れていません。今考えると充分取っているのですが、クラスの人が優秀だったためかなり少なく感じ、後期は頑張って 35 単位ほど取りました。しかし、それほど頑張らなくても外国語と入門科目さえとっておけば問題はなかったと思います。

〇2 回生

2 回生前期で副専攻以外のほとんどの単位を取得し終わりました。いろいろな分野に興味を持つタイプなので、副専攻は苦ではなくむしろ好きなものでしたが、副専攻の単位を集めるのは簡単ではありませんでした。なぜなら、非常に狭い分野から選ぶ必要があるからです。なんとなく取っていたのではなかなか 20 単位にはなりません。講義以外の科目から～など条件もあるので、早いうちに副専攻を決めて計画的に単位を取得していく方が賢いと思います。ただ私は認知情報にも興味があり、どちらを副専攻にするか決めかねていたため、余分な単位もかなり取ってしまいました。でも興味があることだったので後悔はしていません。好きな科目を取りながら 20 単位だけ気をつけておくというのが総人生らしい学び方なのではないでしょうか。

〇3 回生

就職するか進学するか悩んでいた時期でした。入学当初、理系は院に行くことが当たり前だから進学する、という漠然とした将来設計がありました。しかし、他の学部でもそうなのかもしれませんが、特に総人では理系だから進学というわけではないことを知りました。これまではみんなと同じように何も考えずに決めていくことがほとんどでしたが、自分自身で選択しなければならなくなったのです。研究ってどんなものかもわからないのに就活するのか…という思いがあったため、3 回生の 4 月から研究室に行かしてもらい実験を行っていました。自然科学系では意欲のある学生は早いうちから実験をさせてもらえるところが多いと思います。単位も普通に過ごしていれば 2 回生のうちにある程度そろはずなので、研究がどんなものか覗いてみるのもいいのではないのでしょうか。インターンにも行きつつ、やっぱりもう少し研究をしてみたいと思ったので進学を決めました。

〇4 回生

4 回生の前期は院試で必要な TOEIC の勉強をしながら研究を進め、夏休み頃から専門の院試勉強を開始しました。これは他学部と比べるとかなり遅いスタートだと思いますが、授業を受けているので過去問を解きながら 1 ヶ月勉強すれば合格できるはずです。院試が終わると卒論に集中し、無事卒業することができました。でも実は卒業者の決定まで本当に卒業できるかひやひやしていました。4 回生の前期や後期の前に取るべき単位がきちんと取得できているか事務の方に確認してもらおうと安心できると思います。4 回生のはじめに単位が残っていても卒業できないことはないと思いますが、研究の時間が減ってしまいます。

ただでさえ大変な卒論の時期に忙しくなることはおすすめしません。明らかに 1、2 回生の方が暇なので 3 年で単位をそろえておくつもりで頑張りましょう。

総合人間学部はやろうと思えば何でもできるところです。さまざまな人がいます。同じ研究室でもそれぞれ扱っている分野はまったく違って、内容を理解するのは難しいのですが、ゼミに出るだけでもたくさんの刺激があります。暇総人と呼ばれることもあり、自由に楽に生活できると思っていたらそれは間違いです。自由は責任を伴います。楽な方に楽な方に行くとその時は楽しいかもしれませんが、何も得るものはありません。人生の夏休みである大学生活を楽しむことは今しかできないとても大切なことだと思います。でもそれだけではなく、勉強も頑張って自分のためになる過ごし方をしてくださいね。

あとがき

この冊子は、総合人間学部の5学系（人間科学系・認知情報学系・国際文明学系・文化環境学系・自然科学系）から、それぞれの「履修モデル」を皆さんに対して提示したものです。

総合人間学部では、約130名の専任教員が、多数の研究分野にわたり多様な授業科目を提供しています（詳細は『教員プロフィール 2017』を参照のこと）。本冊子の6.にあります「卒業生からのアドバイス」も参考にして、自分の知的好奇心を満足させるよう、色々な授業を幅広く履修して下さい。そのことから、皆さんそれぞれの学問的立脚点や進路も見えてくると思います。

また、総合人間学部では、創立以来、全学生が主専攻とともに「副専攻」を選択し、必要な単位を修得することを求めています。授業時間割の編成上、主専攻の授業科目と副専攻の授業科目の開講曜時限が重なる場合もあり、また隔年開講の授業科目もあります。主専攻・副専攻それぞれの単位を十分に修得できるよう、『総合人間学部便覧』を熟読し、履修計画をしっかりと立てて下さい。

この『総合人間学部履修モデル 2017』は、総合人間学部で提供している全ての学問分野をカバーしたものではありません。学系から提示された「モデル」も、また卒業生からの「アドバイス」も、皆さんの履修計画の参考に提示したに過ぎません。「対話を根幹とした自学自習」が京都大学の基本理念のひとつでありますので、様々な情報や意見を参考にしながら自律的に学修を進めてください。修学上の相談を必要とする場合には、遠慮なく担任やアドバイザーの先生、また教務掛（学系事務室〈総人棟 1106 室〉）あるいは学生相談室（総人棟 1 階）に相談して下さい。

発行 2017 年 4 月 1 日

京都大学 総合人間学部 教務委員会

総合人間学部 教務掛

電話 (075) 753-6506、6507